

令和5年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価結果と対応措置の実施計画 (全学評価・FD委員会における点検・評価結果)

令和5年度の教育の内部質保証に関する自己点検・評価は、「教育の内部質保証に関する点検リスト」(下記(参考1)参照)に定める基準に基づき、教育課程単位で自己点検・評価を実施した。

自己点検・評価の結果、すべての基準を「満たしている」ことが確認され、自己点検・評価結果等を踏まえた改善課題及び対応措置の実施計画をとりまとめた。

(参考1) 教育課程と学習成果に関する点検項目(大学機関別認証評価の基準(領域6)を準用)

○6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であるか

6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定している

○6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であるか

6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示している

6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有している

○6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して体系的であり相応しい水準であるか

6-3-1 教育課程の編成が、体系性を有している

6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっている

6-3-3 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めている

6-3-4 大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしている

○6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されているか

6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっている

6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっている(10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげている)

6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されている

6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当している

○6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われているか

6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われている

6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われている

6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施している

6-5-4 障がいのある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えている

○6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定している

6-6-2 成績評価基準を学生に周知している

6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認している

6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けている

○6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されているか

6-7-1 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定している

6-7-2 大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されている

6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること

6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施している

○6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られているか

6-8-1 標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にある

6-8-2 就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にある

6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている

6-8-4 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている

6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている

(参考2) 関係規則等 抜粋

神戸大学内部質保証指針（抜粋）

5 内部質保証の手順

(1)教育の分野について

①教育課程については、まず、各部局が教育課程点検・評価、組織点検・評価を行い、全学評価・FD委員会において各部局からの報告をとりまとめ、全学的な点検・評価を行い、大学教育推進委員会がその点検・評価が妥当なものであるかどうかの確認等を行う。また、評価委員会によるメタ評価を経て、学長を長とする評議会がその確認等が妥当なものであるかどうかの確認等を行う。評議会の確認等の結果、課題がある場合は、大学教育推進委員会に改善を命じる。また、改善方策の進捗状況に課題がある場合も同様とする。

教育の内部質保証に関する自己点検・評価実施要項(令和2年4月2日大学教育推進委員会決定)（抜粋）

3. 実施方法

(1) 部局（各学部、各研究科及び大学教育推進機構教養教育院）は、教育課程ごとの点検・評価（教育課程点検・評価）及び部局ごとの点検・評価（組織点検・評価）を実施する。

(2) 全学評価・FD委員会は、(1)の結果をとりまとめ、全学的な点検・評価を行う。

(3) 大学教育推進委員会は、(2)の結果が妥当なものであるかどうかの確認等を行い、その結果を神戸大学評価委員会に報告する。

(4) 自己点検・評価の結果に対し、学長を長とする国立大学法人神戸大学教育研究評議会から課題等について改善を命じられた場合、大学教育推進委員会は、関係委員会や部局に対して改善を求めなど速やかに改善に取り組むとともに、その進捗状況を次回の自己点検・評価の際に点検する。

(5) (1)(2)に定める自己点検・評価の実施に関する具体的な手順等は、全学評価・FD委員会が別に定める。

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	計画の進捗状況 ①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	計画の進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
1	大学教育推進委員会	01文学部	入学時アンケートの回答率向上	令和5年11月	対応済 ①入学時アンケートは「情報基礎」の授業内で実施しているため、その担当教員が変わる際の引継ぎの徹底とアンケートの重要性の説明を行う。（来年度以降）	対応済	②今年度の「情報基礎」の担当教員に改めて入学時アンケートの実施を要請するとともに、2024年度の担当教員へしっかりと引継ぎをしてもらった。 ③2024年度の「情報基礎」初回の授業（4/10）で入学時アンケートを実施する。
2	大学教育推進委員会	01文学部	学部ホームページによる情報発信の強化・充実	令和5年11月	検討中 ①神戸大学文学部を選んだ理由として、単に「有名国立」というのではなく、「志望する分野」や「優れた教員」の選択率が上がるように情報発信を工夫する（来年度以降）	検討中	②「文学部だより」と文学部情報誌「LET」がPDF化されてホームページに掲載されているが、動線的にあまり目立たないため、高校生向けのページから簡単にアクセスできるように変更を検討中。 ③まずは早急に「文学部だより」と文学部情報誌「LET」のリンクを貼る。 その後は広報委員会を4月中に開催し、定期的な情報発信の強化・充実のための方策を検討する。
3	大学教育推進委員会	04経済学部	1年生の中で神戸大学学修ポートフォリオを「よく知らない」の回答が2019年から上昇し、2022年度には微減したが34%に高止まりの状態である。また、「111.知っているが、ほとんど活用していない」は、2022年度では20.2%となっている。PGを効率よく使うことは、学修や就活などに必須であり、周知を図り活用を促す必要がある。	令和5年11月	対応中 ①神戸大学学修ポートフォリオの活用について、来年度1年生前期に開講される初年次セミナー及び基礎演習を中心に周知を図る計画である。 ②今年度後期から対応する。 ③応急措置として、今年度後期には、1年生及び2年生の必修科目の授業においてポートフォリオについて説明する予定である。来年度からは、前期開講される1年生を対象とした初年次セミナー及び基礎演習において詳しく説明する予定である。	対応中	②在学生に対しては後期の最初の授業で周知をおこない、来年度の新入生を対象に周知内容と時期について議論した。 ③来年度の前期に開講される1年生を対象とした初年次セミナー、そして2年生を主な対象とする中級マクロ経済学の初回の授業において学修ポートフォリオについて説明する予定である。 （本部への要望） 学修ポートフォリオの使用を促すために、使い方を説明するビデオの作成・公開の検討をお願いしたい。
4	大学教育推進委員会	04経済学部	学生便覧p131の学部カリキュラムマップに「データサイエンス入門」があるが、昨年度以降開講されないことが決まっており、修正する必要がある。	令和5年11月	対応中 ①・令和5年10月入学者用学生便覧に修正箇所を反映させる。 ・令和6年度経済学部学生便覧に修正箇所を反映させる。 ②令和5年10月入学者用学生便覧に修正箇所を反映させた。 ③令和6年度経済学部学生便覧に修正箇所を反映させる予定である。	対応中	②令和5年10月入学者用学生便覧には反映済みであり、令和6年度経済学部学生便覧に関しては、修正を反映させるために校正中である。 ③令和6年度経済学部学生便覧に修正箇所を反映させる予定である。
5	大学教育推進委員会	05経営学部	学部生の英語力について、入学時から向上したと回答している学生は24.3%にとどまる。	令和5年12月	対応中 ①グローバル科目群の主要科目である外国語講義に加えて、外国語講義の講義的な部分を継承した大人数向けの外国語講義をR2年度より開講を開始した。この講義は、経営学の専門的な内容を国際的に知られている教科書を用いて学ぶという内容である。 ②・新たな講義となる外国語講義は前期2科目で、後期1科目を開講し、経営学部生の英語力の継続的な向上をはかっている。 ・R4年度の外国語講義は前期2科目で、後期1科目で、延べ351名が履修した。R2年度以降の開講数および受講者数は増加傾向にある。 ③外国語講義および外国語講義の開講を継続する。これにより、経営学部生の英語力の継続的な向上につとめる。	対応済	②R4年度の外国語講義は前期2科目、後期1科目で、延べ351名が履修した。 R5年度の外国語講義は前期2科目、後期2科目で、延べ571名が履修した。 R2年度以降の開講数および受講者数は増加傾向にある。 ③外国語講義および外国語講義の開講を継続する。これにより、経営学部生の英語力の継続的な向上につとめる。
6	大学教育推進委員会	05経営学部	学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実するために、経営学におけるデータサイエンス（データを用いた統計的分析）に関する教育を充実させる。	令和5年12月	対応済 ①学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実させるために、経営学におけるデータサイエンス（データを用いた統計的分析）に関する教育を充実させる。 ②新たな教育プログラムとなる経営データ科学特別学修プログラムを設計し、2023年度から実施している。 ③経営データ科学特別学修プログラムを継続し、さらに科目を充実させる。高度な統計分析手法をマスターしたうえで、自ら経営のデータを集めて統計分析できる高度な人材を輩出できるよう努める。		
7	大学教育推進委員会	06理学部	一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。	令和5年12月	対応済 ①令和5年度中に、シラバスの記載内容を改善する ②改善方針についてR4年度の教務委員会で検討し、R4年12月の理学部教授会において、シラバスの記載方法等について説明した。R5年度のシラバスについて、R5年2～3月に各学科の教務委員会委員が内容を確認した。さらに、R5年度の教務委員会がシラバスの確認・修正状況に関して対応済みであることを確認した。		
8	大学教育推進委員会	07医学部 医学科	図書館の開館時間の短縮や対面授業の再開に伴う自習スペースの確保が課題となっており、学修環境の整備について改善を図る。	令和5年11月	対応中 ①福利厚生施設の移転に伴う跡地利用については、令和4年度に開かれた楠キャンパスラーニング・コモンズ設置検討ワーキングを中心に検討され、1階生協をラーニングコモンズに改修することが決まった。 ②・令和5年度に予算が組まれ、旧福利厚生棟全体の改修工事が計画されており、1階ラーニングコモンズは令和6年3月下旬の完成を見込んでいる。 ・予算をみながら什器類の最終調整を行っている。現在、福利厚生棟3階生協食堂の営業終了後をラーニングコモンズ完成までの間、自習室として開放する。 ③ラーニング・コモンズに搬入する什器類を最終確定し、契約を行う。令和6年3月22日を見込んでいる改修工事後、什器類を搬入し、自習スペースの整備を完了する。併せて、ラーニング・コモンズの使用ルールについて検討する。	対応中	②現在、福利厚生棟3階生協食堂の営業終了後を自習室として開放しており、3月末で終了を予定していたものの、ラーニングコモンズの工事が遅れていることから、4月の竣工時まで生協食堂の開放を継続する。 ③ラーニング・コモンズに搬入する什器類を最終確定し、契約を行った。令和6年3月末に什器類を搬入し、自習スペースを整備する。併せて、ラーニング・コモンズの使用ルール（利用案内）について検討を重ねており、今月の関係会議等で了承を得る。

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	計画の進捗状況 ①対応計画（改善方針） ②進捗状況 ③今後の予定	計画の進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
9	教育課程推進委員会	07医学部 医学学科	・臨床実習カリキュラムの改善 ・現在、日本で医学部生が参加する臨床実習は、従前の見学型実習から診療参加型実習へ内容が変化している。また、知識以外の技能・態度・習慣に係る学修成果を測る OSCE 試験が次年度から公的化される。これらを踏まえ、本学の臨床実習の問題点を洗い出し、改善を図る。	令和4年12月		対応済 ②新カリキュラムの適用を受けた最初の学年が、改訂後の臨床実習カリキュラムをすべて終え、2月の国家試験に臨んだ。 ③今年度の国家試験の合格実績のほか、カリキュラム改訂後のIR活動等を次年度の早い時期に振り返り、課題点や前過程から改善された点等について総括を行う。	
10	教育課程推進委員会	08医学部 保健学科	6-8-1 標準修業年限内卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率の改善	令和5年11月	対応済 ①2年次への仮進級を認める申合せの策定を行った。（10月12日 学部教務委員会承認、10月19日 教授会承認） 令和5年度入学学生から適用 令和5年度の2年への進級に置いて実施される。3月実施	対応済 ②2年次進級に関する学生向けの掲示（2月16日）。仮進級の手続きの周知。学生相談を行う教務委員の相談体制の構築。 ③学生の仮進級の提出期間（3月14日～3月18日）	
11	教育課程推進委員会	10農学部	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」 内容：「外国語の運用・表現能力」は「十分身についた」「ある程度身についた」の合計が R1-R3 間で66.2%、69.4%、69.6%と着実に増加傾向があることは、英語教育に力を投じている農学研究科としては満足できる傾向にある。この値をもう一段階上（80%）に持っていくには、何らかの施策が必要であると思われる。	令和4年12月	対応中 ①・令和5年度にフィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）、ネブラスカ大（UNL）、ジョージア工科大学（GT）との講義・演習の再開・継続を目指す ・令和5年度に総合評価指標（大学指定指標）（7-1-1）国際共同教育による授業科目数を（7-1-2）外国語による授業科目数の割合の増加を目指す。 ②・UPLB：フィリピン大学ロスバニョス校：「グローバルチャレンジ実習（UPLBコース）」令和6年2-3月に渡航・開講予定 ・UNL：ネブラスカ大：「English for Agricultural Science」9月上旬に開講予定 ・UNL：農学英語研修 9/17～10/10の予定で渡航予定 ・GT：ジョージア工科大学：「Energy, Environment and Policy」6/26～7/26で実施済み ・国際共同教育による授業科目数は令和4年度の4講義から令和5年8月現在で7講義に増加し、令和6年1月にさらに1講義の追加を予定 ・外国語による授業科目数の割合は令和4年度の7.49%から 令和5年8月現在20%程度に増加 ③・上記進捗状況に示した海外提携校との講義・演習の再開・継続 ・国際共同教育による授業科目数は令和8年度までに8講義以上を目標とする（学部・大学院の総計） ・外国語による授業科目数の割合は令和8年度までに15%以上を目標とする（学部・大学院の総計）	対応中 ②現在のところ、令和6年2-3月予定されているUPLB実習以外、すべての対応策と数値目標が達成できている ③・海外提携校との講義・演習の再開・継続は、令和6年2-3月予定されているUPLB実習を除き達成済み ・国際共同教育による授業科目数は、目標とした8講義を今年度に達成した（9講義）（学部・大学院の総計） ・外国語による授業科目数の割合は、目標とした15%以上を今年度に達成した（21.9%）（学部・大学院の総計）	
12	教育課程推進委員会	11海洋政策科学部	海洋政策科学部は一期生が令和6年度に初めて卒業生を出すことになるが、卒業後、一定年限を経過した卒業生及び就職先や進学先等の関係者へ効率的に意見を聴取する手段が未定である。	令和5年11月	検討中 ①卒業後、一定年限を経過した卒業生及び就職先や進学先等の関係者へ効率的に意見を聴取する手段を検討し確立する。	対応中 ②卒業後、一定年限を経過した卒業生へ効率的に意見を聴取する手段を検討中である。なお、就職先や進学先等の関係者には、既に意見聴取を実施している。 ③令和7年3月の海洋政策科学部一期生卒業後一定年限経過後（令和9年頃予定）の実施に向けて、引き続き、卒業生へ効率的に意見を聴取する手段を検討する。	
13	教育課程推進委員会	11海洋政策科学部	本学部への受験が「有名な」、「国立大学の」、「地理的条件があっている」等の理由で選ばれる傾向が強まっている。また、神戸大学に関する情報を学部ホームページから収集する割合が2年連続で減少している。ホームページを通して、本学部での教育や研究の魅力が受験生により伝わるように対応する必要がある。	令和5年11月	検討中 ①2025年度の新大学院設置に合わせて、学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等を検討し、より魅力的な情報発信を目指す。	対応中 ②神戸大学大学院海事科学研究科 広報・社会交流推進委員会において、2025年度の新大学院設置に合わせて、学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等の検討を進めている。 ③2025年4月1日のホームページ更新に向けて、引き続き神戸大学大学院海事科学研究科 広報・社会交流推進委員会にて学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等の検討を進める。	
14	教育課程推進委員会	12人文学研究科	入学時アンケートの回答率向上	令和5年11月	検討中 ①入学時アンケートを4月のガイダンスの際に実施する（来年度以降）	対応済 ②今後は毎年度の「新入生ガイダンス」の時間内に「入学時アンケート」を実施、回収するように実施計画に予定を組み込む。 ③博士課程前期課程の新入生ガイダンス（4/5）において「入学時アンケート」を実施する。	
15	教育課程推進委員会	15法学研究科	・法学研究科実務法律専攻（法科大学院）について、カリキュラム改正や法科大学院認証評価基準の改訂への対応 ・学位授与方針、教育課程方針 ・カリキュラムマップ ・教育上主要と認める授業科目 ・法科大学院運営委員会および専攻会議において、各授業科目の成績評価や単位認定について確認をしていることを、議事録に記載すること ・成績に対する異議申立て制度	令和4年12月		対応済 ②・学位授与方針、教育課程方針、カリキュラムマップを改定した（令和4年12月7日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価不服申立に関する内規」を改定した（令和5年1月5日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価基準に関する細則」を改定し、成績評価につき所定の割合が守られていることを実務法律専攻が専攻会議において報告することなどを定めた（令和5年2月1日実務法律専攻会議）。 ③教育上主要と認める授業科目を定めた（令和5年4月26日法科大学院運営委員会）。	
16	教育課程推進委員会	16経済学研究科	今年度から異分野共創型修士プログラム（KIMAP）の開始にもない、経済学研究科アドミッションポリシーと研究科規則を更新する必要がある。また5年一貫経済学国際教育プログラム（IFEK）に関する文書の改正も必要となる。	令和5年11月	対応中 ①・教授会において改正を審議・承認する。 ・令和5年度10月入学用学生便覧に改正箇所を反映させる。 ・令和6年度学生便覧に改正箇所を反映させる。 ②・教授会において改正を審議・承認済み。（根拠資料：令和5年度第2回経済学研究科教授会（1）資料6、令和5年度第3回経済学研究科教授会（1）資料1、令和5年度第3回経済学研究科教授会（1）資料13） ・令和5年度10月入学用学生便覧に改正箇所を反映済み ③令和6年度学生便覧に改正箇所を反映させる。	対応中 ②令和5年10月入学用学生便覧には反映済みであり、令和6年度経済学部学生便覧に関しては、修正を反映させるために校正中である。 ③令和6年度学生便覧に改正箇所を反映させる予定である。	

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度				
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）		
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	計画の進捗状況 ①対応計画（改善方針） ②進捗状況 ③今後の予定	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
17	教育課程 大学教育推進委員会	17経営学研究科	後期課程への進学希望者が若干減少し、民間企業への就職の割合が増加している。	令和3年12月	対応中	対応済	①博士後期課程への進学を決定するにあたって重要と思われる情報を、研究科ホームページから可能な限り積極的に発信する。また内部進学者を増加させる取り組みとして、大学院説明会の開催を行う。さらに、奨学金など経済的支援の充実について検討を行う。 ②・今年度、募集が行われた次世代研究者挑戦的研究プログラムに、2名の後期学生が採択された。また、文理融合フェローシップの助成において、後期課程在籍学生の3名がフェローとなっている。研究科では2つの部局内センターが設置されているが、うち1つの中小M&A研究センターで、大学院生に対する研究助成金募集を行った。さらに、大学院説明会を6月に行った。 ・上記課題を解決できるように、学術目的で海外へ渡航する大学院生を助成により補助し、さらに今年度から大学院説明会を行うことで大学院博士課程の魅力を周知している。 ③当研究科では、助成による金銭的な支援があることや、後期課程進学の後に多数の修了者が職業研究者になっていることなどの魅力を伝えることをはじめ、情報発信を積極的に行う。	②上記課題を解決できるように、学術目的で海外へ渡航する大学院生を助成により補助し、さらに今年度から大学院説明会を行うことで大学院博士課程の魅力を周知している。 ③当研究科では、助成による金銭的な支援があることや、後期課程進学の後に多数の修了者が職業研究者になっていることなどの魅力を伝えることをはじめ、情報発信を積極的に行う。
18	教育課程 大学教育推進委員会	17経営学研究科	入学者進路に関して、大学院への進学と回答した学生の割合は、全学平均と比較して著しく低い。	令和3年12月	対応済		①経営学部からの内部進学者を増加させる取り組みとして、大学院説明会や新入生オリエンテーション等で、大学院の魅力や5年間で修士号を取得できるKIMERAプログラムおよびKIMAPコースについて積極的に発信する。 ②経営学部生の大学院での研究に対する関心を高めることを目的として、大学院説明会を6月に行った。また、部局間協定による留学派遣（KIBER）を前提としたKIMERAプログラムと、GMAPs後継プログラムとなるKIMAPについて周知を行った。 ③学部新入生オリエンテーションにおいて、大学院進学について説明を行い、さらに大学院説明会を継続する。また、KIMERAプログラムおよびKIMAPコースについての周知を継続する。	
19	教育課程 大学教育推進委員会	18理学研究科	・シラバスの記載内容 ・一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。	令和4年12月	対応済		①令和5年度中に、シラバスの記載内容を改善する ②改善方針についてR4年度の教務委員会で検討し、R4年12月の理学研究科教授会において、シラバスの記載方法等について説明した。R5年度のシラバスについて、R5年2～3月に各専攻の教務委員会委員が内容を確認した。さらに、R5年度の教務委員会がシラバスの確認・修正状況に関して対応済みであることを確認した。	
20	教育課程 大学教育推進委員会	20保健学研究科	大学院生への就職支援	令和5年11月	対応中	対応済	①令和6年度向け「マイナビ」就職ガイダンスを大学院生にも、うりぼーネットを通じ、周知、案内している。就職資料室においても、大学院用求人コーナーを設置した。 ②10月から実施する就職ガイダンスについて、大学院生も参加する可能性がある旨、「マイナビ」の担当者と打合せを行い、了解をもらっている。	
21	教育課程 大学教育推進委員会	20保健学研究科	他研究科や他分野との研究の推進	令和5年11月	対応中	対応済	①神戸大学保健学研究科リカレント事業 10月～ウェルビーイング教育プログラム実施要項について来年4月 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」来年4月 ②神戸大学保健学研究科リカレント事業 「地域共生社会の牽引人材を育成する重層支援DXに関するリカレント教育プログラム」に関しては10月より実施予定。ウェルビーイング教育プログラム実施要項について人間発達環境学研究科と来年4月より実施予定。 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」来年4月については、神戸大学医学研究科、近畿大学、大阪公立大学、関西医科大学、兵庫医科大学と協定を結び、来年4月より実施予定。	②がんプロフェッショナル養成コース、ウィルビーイング教育プログラムの規則整備。デジタル医工創成学コースにおける他研究科の科目を履修条件の緩和の為の規則整備
22	教育課程 大学教育推進委員会	23農学研究科	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」内容：全体的に高い学修・満足度を維持できている一方、R3は「十分身についた」「ある程度身についた」が47.1%と減少した。これは2年間のコロナ禍が影響しており、部局が力を入れている海外渡航・海外講師招聘が実施出来なかったことが要因であると考えられた。早期にでもこれらの講義を実施したいと考えている。	令和4年12月	対応中	対応中	①・令和5年度にフィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）、ネブラスカ大（UNL）、ジョージア工科大学（GT）との講義・演習の再開・継続を目指す。 ・令和5年度に総合評価指標（大学指定指標）（7-1-1）国際共同教育による授業科目数を（7-1-2）外国語による授業科目数の割合の増加を目指す。 ②・UPLB：フィリピン大学ロスバニョス校：「Intermediate Techniques in English Speech Delivery」5/上旬-8/上旬で実施済み 「Comprehensive Techniques in English Speech Delivery」5/上旬-8/上旬で実施済み ・UNL：ネブラスカ大：「UNL農学応用英語研修」9/17～10/1の予定で渡航・開講予定 ・GT：ジョージア工科大学：「Advanced Energy, Environment and Policy」6/26～7/26で実施済み ・国際共同教育による授業科目数は令和4年度の4講義から令和5年8月現在で7講義に増加し、令和6年1月にさらに1講義の追加を予定 ・外国語による授業科目数の割合は令和4年度の7.49%から令和5年8月現在20%程度に増加 ③・上記進捗状況に示した海外提携校との講義・演習の再開・継続 ・国際共同教育による授業科目数は令和8年度までに8講義以上を目標とする（学部・大学院の総計） ・外国語による授業科目数の割合は令和8年度までに15%以上を目標とする（学部・大学院の総計）	②現在のところ、令和6年2-3月予定されているUPLB実習以外、すべての対応策と数値目標が達成できている ③・上記進捗状況に示した海外提携校との講義・演習の再開・継続は、令和6年2-3月予定されているUPLB実習を除き達成済み ・国際共同教育による授業科目数は、目標とした8講義を今年度に達成した（9講義）（学部・大学院の総計） ・外国語による授業科目数の割合は、目標とした15%以上を今年度に達成した（21.9%）（学部・大学院の総計）

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	計画の進捗状況 ①対応計画（改善方針） ②進捗状況 ③今後の予定	計画の進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
23	教育課程 大学教育推進委員会	23農学研究科	入学時アンケートの割合が低い（令和4年度：9.3%、令和5年度：16.8%）	令和5年11月	対応中 ①令和6年度の入学・進学时におけるガイダンス時にアンケートを実施する。 ②令和5年8月までに企画調整室グループと教務学生係メンバーと複数回解決策の検討を行い、上記の対応計画を策定した。 ③ガイダンス時に向けたアンケート対応の具体策を検討する。	対応中 ②令和6年度の入学・進学时ガイダンスにおけるアンケートの具体策を設定した ③ガイダンス時に向けたアンケート対応の具体策を実施する。	
24	教育課程 大学教育推進委員会	24海事科学研究所	○分析項目 6-1、6-2、6-3：令和7年4月に予定されている大学院改組に向けた現研究科の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針検討。 内容：令和7年4月の大学院改組に向けて、部局内で組織された大学院改組WGを中心にして、現研究科における従来の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針の策定及びカリキュラムの検討を行っている。	令和5年12月		対応済 ②大学院改組WGにおいて、現研究科の教育研究の総括に基づき、新しい大学院の組織（研究科、専攻、コース、教育研究分野など）、ポリシー関係（AP、DP、CP）、カリキュラム（開講科目、英語での実施科目、開講時期、担当教員、修了要件など）が検討され、令和5年6月21日開催の教授会で承認された。	
25	教育課程 大学教育推進委員会	24海事科学研究所	学部入学時アンケートによれば、本学部設置後の3年間、大学院への進学希望の割合が年々増えている（2021：48.4% → 2022：57.1% → 2023：62.0%）。この割合は、現在の学部定員（200名）対大学院定員（75名）の比37.5%よりもかなり高い。海事科学部の最後の学年が受験した本年8月実施の大学院入試（一般）の結果を見ると、コースによっては合格率6割程度の狭き門になっている。来年度、海洋政策科学部一期生が大学院受験を迎えるが、入学時アンケートの結果がそのまま反映されると仮定すれば、受験者が更に増加することも考えられる。それ故、新大学院の定員管理の観点から、ここ数年は受験者動向を注意深く見る必要がある。	令和5年11月	検討中 ①2023年度中に、今年度で終了する現大学院入試について、2017年度の改組以降の8年間について、受験動向の分析と取りまとめを行う。	対応済 ②2023年度中に、今年度で終了する現大学院入試について、2017年度の改組以降の8年間について、受験動向の分析と取りまとめを行った。	
26	教育課程 大学教育推進委員会	25国際協力研究科	学位論文指導体制検証	令和5年11月	対応済 ①前回認証評価で指摘され、令和4年度から導入した研究指導計画書に基づく学位論文の指導体制が効果的に運用されているかを確認し、更なる問題点がないかを、令和5年度内に確認し、改善すべき点を検討する。 ②研究指導計画書の作成、提出については実現したが、その内容の充実、更には作成比率の向上については、依然として取り組むべき課題がある。 ③認証評価分析項目6-3-4に対応すべく、「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制を効果的に運用するため、提出状況等も組織的に確認する。またその内容の活用方法や改善策につき、令和5年度内に検討し、改善策を案出する。	対応済 ②認証評価分析項目6-3-4に対応すべく、「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制を効果的に運用するため、2024年2月教授会で提出状況等を確認した。また作成率の向上についても、課題点を審議した。 ③作成率の向上については、休学者も含めた学生との連携強化が課題として挙げられた。令和6年度中に、課題解決に向けた学生との連携強化を目的として連絡を密に行い、研究指導の効果を上げるべく各指導教員が実施していくことを確認した。	
27	教育課程 大学教育推進委員会	25国際協力研究科	シラバスの記載内容の検討	令和5年11月	対応済 ①個人指導等が中心となる単位科目を中心に、成績評価基準に則り、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われているかを令和5年度内に確認する。また同じ期間に、この検討・確認を行うためのシステムを確立する。 ②シラバスの内容等の確認については既に終了しているが、その改善の方向性の検討、及び充実については依然として取り組むべき課題がある。 ③認証評価分析項目6-4-3、6-6-2、6-6-3に対応すべく、成績評価関係のシラバスの記載内容の確認を教務委員会が行い、教授会にて内容を報告し、各授業科目の成績評価や単位認定について、適切な運用がなされているかを教授会において議論の上、確認する。	対応済 ②認証評価分析項目6-4-3、6-6-2、6-6-3に対応すべく、成績評価関係のシラバス記載内容の確認を教務委員会が行い、2023年12月教授会で各授業科目の成績評価や単位認定について適切な運用がなされているか教授会において確認した。教務委員長より明確な成績評価基準を記載するよう改めて指示があった科目は昨年度比約25%減となり、継続的な取組の効果が現れた。	
28	教育課程 大学教育推進委員会	25国際協力研究科	修了生の学修成果検討	令和5年11月	対応中 ①修了生について意見聴取できる資料を用意するための仕組みを活用し、アンケート調査を行い、今後の教育の改善のための参考資料を作成する。 ②電子メール等を巡る意見聴取の仕組みを構築したものの、メールニュースの発信やメール受信状況の詳細の確認には至っていない。またアンケート調査は未実施であり、早急にその実施を実現する必要がある。 ③認証評価分析項目6-8-4への対応とし、継続的に修了生から意見聴取する仕組み「修了生メールニュース制度の構築について」を2023年1月教授会決定し、修了生にメールで意見聴取できる仕組みを構築した。今後は令和5年度内に、定期的にメールニュースを配信し、その受信状況を可能な限り確認する。また、同じ期間内に認証評価分析項目6-8-4で求められている「大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」の修了生からのアンケート調査ができるよう準備を進める。	対応済 ②認証評価分析項目6-8-4への対応とし、継続的に修了生から意見聴取する仕組み「修了生メールニュース制度の構築について」を2023年1月教授会決定し、修了生にメールで意見聴取できる仕組みを構築した。2023年9月までに計6回のメールニュースを配信し、その受信状況を随時確認している。2024年3月には「大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」の修了生からのアンケート調査を行うことが決定した。 ③2024年3月及び2024年9月に実施する修了生のアンケート結果について、2024年度中に組織的に確認し、社会における教育の効果を確認し、今後も継続して学習成果が得られるよう検討する。	

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	計画の進捗状況 ①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
29	教育課程 大学教育推進委員会	26科学技術イノベーション研究科	令和5年度に採択された文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」を令和6年度より本格実施するにあたり、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を改正する必要がある。（分析項目6-1-1）	令和5年11月	対応中	対応済	②・令和5年8月に同事業の採択が決定し、ディプロマ・ポリシーの改正に向けて研究科内で具体的な内容を協議している。 ・令和5年12月25日科学技術イノベーション研究科研究科教授会でDPの改正について審議・承認した。 ・令和6年1月10日 大学教育推進委員会 了承 ・令和6年2月15日 教育研究評議会 了承 ③令和5年度中に博士課程前期課程及び博士課程後期課程のディプロマ・ポリシーを同事業の実施計画に即した形で改正する。
30	教育課程 大学教育推進委員会	26科学技術イノベーション研究科	外国語の運用・表現能力の獲得（修了時アンケート分析課題）	令和5年11月	対応中	対応中	②令和6年度「プレゼンテーション演習」のシラバスに英語での研究発表を必須とする旨を明記した。 ③・当該科目の令和6年度シラバスに英語での研究発表を必須とする旨を明記し、指導教員及び対象学生に周知する。令和6年度より実際の演習の中で英語による研究発表を行わせる。 ・令和6年度末には修了時アンケートで、外国語の運用・表現能力の獲得についてアンケートを行う。
31	教育課程 大学教育推進委員会	26科学技術イノベーション研究科	博士課程後期課程への進学を検討している学生の割合が増加しており、進学支援策を充実させる必要がある。（入学・進学時アンケート分析課題）	令和5年11月	対応中	対応済	②令和5年11月20日に企業でイノベーションフェローを務める外部講師を招き、主に博士課程前期課程1年生を対象としたキャリアガイダンスを開催した。 ③令和5年度中に、対応済みの進学ガイダンスの早期実施以外の進学支援策を策定し、適宜実施する。

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	文学部			
課題の内容	入学時アンケートの回答率向上			
課題とした根拠資料等	令和 5 年度 入学進学時アンケート集計結果（全学共通・選択式）			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	入学時アンケートは「情報基礎」の授業内で実施しているため、その担当教員が変わる際の引継ぎの徹底とアンケートの重要性の説明を行う。（来年度以降）			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 「情報基礎」の担当教員に必ず授業時間内で実施することを徹底させるとともに、担当教員変更の際にはきちんとアンケート実施の引継ぎを行ったか評価・FD 委員が確認する。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	今年度の「情報基礎」の担当教員に改めて入学時アンケートの実施を要請するとともに、2024 年度の担当教員へしっかりと引継ぎをしてもらった。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	2024 年度の「情報基礎」初回の授業（4/10）で入学時アンケートを実施する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	文学部			
課題の内容	学部ホームページによる情報発信の強化・充実			
課題とした根拠資料等	令和5年度 入学進学時アンケート集計結果（全学共通・選択式）			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	神戸大学文学部を選んだ理由として、単に「有名国立」というのではなく、「志望する分野」や「優れた教員」の選択率が上がるように情報発信を工夫する（来年度以降）			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。			
	文学部・人文学研究科のホームページについては、大きな枠組みの変更はできないが、文学部・人文学研究科への入学理由として「志望する分野」や「優れた教員」の選択率が上がるような工夫を行う。 また、高校生向けのページの定期的な更新についても担当を含め検討すべきである。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	「文学部だより」と文学部情報誌「LET」がPDF化されてホームページに掲載されているが、動線的にあまり目立たないため、高校生向けのページから簡単にアクセスできるように変更を検討中。			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください）	まずは早急に「文学部だより」と文学部情報誌「LET」のリンクを貼る。 その後は広報委員会を4月中に開催し、定期的な情報発信の強化・充実のための方策を検討する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）				
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	経済学部			
課題の内容	1年生の中で神戸大学学修ポートフォリオを「よく知らない」の回答が2019年から上昇し、2022年度には微減したが34%に高止まりの状態である。また、「III.知っているが、ほとんど活用していない」は、2022年度では20.2%となっている。PCを効率よく使うことは、学修や就活などに必須であり、周知を図り活用を促す必要がある。			
課題とした根拠資料等	令和4年度「学修の記録」（後期・追加設問分）設問9			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	●神戸大学学修ポートフォリオの活用の活用については、来年度1年生前期に開講される初年次セミナー及び基礎演習を中心に周知を図る計画である。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 1年生対象の中級ミクロ経済学（10/2（月）1限）、2年生対象の経済倫理と思想（10/4（水）1限）において周知をおこなった。また、3月5日に初年次セミナーの今年度と来年度担当者の意見交換会を開き、来年度の新生生に対して初年次セミナーにおいて学修ポートフォリオの使い方について説明することについて話し合った。				
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	在学生に対しては後期の最初の授業で周知をおこない、来年度の新生生を対象に周知内容と時期について議論した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	来年度の前期に開講される1年生を対象とした初年次セミナー、そして2年生を主な対象とする中級マクロ経済学の初回の授業において学修ポートフォリオについて説明する予定である。 （本部への要望） 学修ポートフォリオの使用を促すために、使い方を説明するビデオの作成・公開の検討をお願いしたい。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	経済学部			
課題の内容	学生便覧 p131 の学部カリキュラムマップに「データサイエンス入門」があるが、昨年度以降開講されないことが決まっており、修正する必要がある。			
課題とした根拠資料等	令和 5 年度経済学部学生便覧 p. 131			
対応計画 (改善方策) (時期も記載してください)	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和 5 年 10 月入学者用学生便覧に修正箇所を反映させる。 ● 令和 6 年度経済学部学生便覧に修正箇所を反映させる。 			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 (自己点検・評価時)	令和 5 年度 (進捗状況確認時)
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 5 年 10 月入学者用学生便覧に修正箇所を反映させた。 令和 6 年度経済学部学生便覧の原稿には反映させているが、まだ最終版は発行されていない。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 5 年 10 月入学者用学生便覧には反映済みであり、令和 6 年度経済学部学生便覧に関しては、修正を反映させるために校正中である。			
今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)	令和 6 年度経済学部学生便覧に修正箇所を反映させる予定である。			

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）				
確認年月	令和3年12月			
対応計画の実施主体	経営学部			
課題の内容	学部生の英語力について、入学時から向上したと回答している学生は24.3%にとどまる。			
課題とした根拠資料等	令和2年度「卒業・修了時アンケート」			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	グローバル科目群の主要科目である外国書講読に加えて、外国書講読の講義的な部分を継承した大人数向けの外国文献講義をR2年度より開講を開始した。この講義は、経営学の専門的な内容を国際的に知られている教科書を用いて学ぶという内容である。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	☑ 検討中	☑ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☐ 対応中	☑ 対応中	☐ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☑ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 新たな講義となる外国文献講義は令和4年度は前期2科目、後期1科目を開講し、令和5年度は前期2科目、後期2科目を開講し、経営学部生の英語力の継続的な向上をはかっている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	R4年度の外国文献講義は前期2科目、後期1科目で、延べ351名が履修した。 R5年度の外国文献講義は前期2科目、後期2科目で、延べ571名が履修した。 R2年度以降の開講数および受講者数は増加傾向にある。			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください）	外国書講読および外国文献講義の開講を継続する。これにより、経営学部生の英語力の継続的な向上につとめる。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	<p>（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）</p>			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	経営学部			
課題の内容	学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実させることが望ましい。			
課題とした根拠資料等	経営学部 FD 委員会・教授会資料			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実するために、経営学におけるデータサイエンス（データを用いた統計的分析）に関する教育を充実させる。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を <input checked="" type="checkbox"/> にしてください。	<p>※上記の進捗状況について具体的に記載してください。</p> <p>新たな教育プログラムとなる経営データ科学特別学修プログラムを設計し、2023年度から実施している。</p>			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	経営データ科学特別学修プログラムを新たな教育プログラムとして2023年度から実施することにより、授業科目の内容をさらに充実させている。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	経営データ科学特別学修プログラムを継続し、さらに科目を充実させる。高度な統計分析手法をマスターしたうえで、自ら経営のデータを集めて統計分析できる高度な人材を輩出できるよう努める。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	理学部			
課題の内容	シラバスの記載内容が不十分（分析項目6-4-3）			
課題とした根拠資料等	機関別認証評価における大学改革支援・学位授与機構（NIAD）の指摘事項			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	令和5年度中に、シラバスの記載内容を改善する			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 改善方策についてR4年度の教務委員会で検討し、R4年12月の理学部教授会において、シラバスの記載方法等について説明した。R5年度のシラバスについて、R5年2～3月に各学科の教務委員会委員が内容を確認した。さらに、R5年度の教務委員会がシラバスの確認・修正状況に関して対応済みであることを確認した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況				
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	医学部医学科			
課題の内容	図書館の開館時間の短縮や対面授業の再開に伴う自習スペースの確保が課題となっており、学修環境の整備について改善を図る。			
課題とした根拠資料等	令和4年11月16日医学科会議			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	福利厚生施設の移転に伴う跡地利用については、令和4年度に開かれた楠キャンパスラーニング・コモンス設置検討ワーキングを中心に検討され、1階生協をラーニングコモンスに改修することが決まった。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和5年度に組まれた予算のほか寄付金等を使用して、旧福利厚生棟1階ラーニングコモンスの整備を進めた。令和6年3月下旬の完成を見込んでいたものの、工事に遅れが発生し、4月半ばから運営を開始する予定である。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	現在、福利厚生棟3階生協食堂の営業終了後を自習室として開放しており、3月末で終了を予定していたものの、ラーニングコモンスの工事が遅れていることから、4月の竣工時まで生協食堂の開放を継続する。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	ラーニング・コモンスに搬入する什器類を最終確定し、契約を行った。令和6年3月末に什器類を搬入し、自修スペースを整備する。併せて、ラーニング・コモンスの使用ルール（利用案内）について検討を重ねており、今月の関係会議等で了承を得る。			

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にして下さい。)</p>	<p>■ 大学教育推進委員会 □ 施設マネジメント委員会 □ 情報委員会 □ 附属図書館運営委員会 □ 学生委員協議会 □ 留学生委員会 □ 入試委員会</p>	/
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	/
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 臨床実習カリキュラムの改善</p>		
<p>内容</p>	<p>現在、日本で医学部生が参加する臨床実習は、従前の見学型実習から診療参加型実習へ内容が変化している。また、知識以外の技能・態度・習慣に係る学修成果を測る OSCE 試験が次年度から公的化される。これらを踏まえ、本学の臨床実習の問題点を洗い出し、改善を図る。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 3 年 7 月 21 日医学科会議</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>医学部医学科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>令和 3 年 8 月より臨床実習改革ワーキングを発足させ、臨床教育に関わる教員をメンバーに、従前の BSL、関連病院実習、個別計画実習について、改善の方向性や具体的なカリキュラム内容、期間、教員 FD 等の細部にわたり協議を重ねた。令和 3 年 12 月の医学科会議において、新たに臨床実習 1・2・3 として医学部内関係者の了承を得、現 5 年生（新実習策定時 4 年生）より新たな実習カリキュラムを適用することとした。</p> <p>現 5 年生を中心に、各実習が終了するごとにアンケートを実施し、教育研究・IR 委員会で結果を分析し、新たに提示された問題点等に対応し、改善を図る。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p>□ 検討中 □ 対応中 ■ 対応済 □ その他 ()</p>	
<p>進捗状況</p>	<p>新カリキュラムの適用を受けた最初の学年が、改訂後の臨床実習カリキュラムをすべて終え、2 月の国家試験に臨んだ。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>今年度の国家試験の合格実績のほか、カリキュラム改訂後の IR 活動等を次年度の早い時期に振り返り、課題点や前過程から改善された点等について総括を行う。</p>	

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	医学部保健学科			
課題の内容	6-8-1 標準修業年限内卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率の改善			
課題とした根拠資料等	・神戸大学医学部保健学科における学生の進級に関する申合せ			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	2年次への仮進級を認める申合せの策定を行った。 （10月12日 学部教務委員会承認、10月19日 教授会承認） 令和5年度入学学生から適用 令和5年度の2年への進級に置いて実施される。3月実施			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	2年次進級に関する学生向けの掲示（2月16日）。仮進級の手続きの周知。学生相談を行う教務委員の相談体制の構築。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	学生の仮進級の提出期間（3月14日～3月18日）			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	農学部			
課題の内容	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」。「外国語の運用・表現能力」は「十分身についた」「ある程度身についた」の合計が令和元年度～4年度間で60-70%の間で推移している。この結果はある程度満足できるものであるものの、国際化を重視化する農学部ではより質の高い英語教育に力を入れたい。			
課題とした根拠資料等	令和4年度「卒業・修了時アンケート」集計結果に関する対応調査票 総合評価指標（大学指定指標）に係る令和4年度実績値			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度にフィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）、ネブラスカ大（UNL）、ジョージア工科大学（GT）との講義・演習の再開・継続を目指す 令和5年度に総合評価指標（大学指定指標）（7-1-1）国際共同教育による授業科目数を（7-1-2）外国語による授業科目数の割合の増加を目指す。 			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	☑ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	<ul style="list-style-type: none"> UPLB：フィリピン大学ロスバニョス校： <ul style="list-style-type: none"> 「グローバルチャレンジ実習（UPLBコース）」令和6年2-3月に渡航・開講予定 UNL：ネブラスカ大： <ul style="list-style-type: none"> 「English for Agricultural Science」を9/5-7に開講した 「UNL 農学英語研修」を渡航期間9/17～10/1で実施した GT：ジョージア工科大学： <ul style="list-style-type: none"> 「Energy, Environment and Policy」6/26～7/26で実施した 国際共同教育による授業科目数は令和4年度の4講義から、9講義に増加し目標を達成（令和5年12月） 外国語による授業科目数の割合は令和4年度の7.49%から21.9%に増加し目標を達成（令和5年12月） 世界展開力強化事業「食」を通して持続可能な世界を実現するグローバル人材 			

	<p>育成のための異文化共修型国際プログラム」に当部局主導で申請・採択され(5年間、総額1.4億)、上記対応計画に弾みをつけることができた。</p>
<p>自己点検・評価時からの具体的な進捗状況</p>	<p>現在のところ、令和6年2-3月予定されているUPLB実習以外、すべての対応策と数値目標が達成できている</p>
<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外提携校との講義・演習の再開・継続は、令和6年2-3月予定されているUPLB実習を除き達成済み ・国際共同教育による授業科目数は、目標とした8講義を今年度に達成した(9講義)(学部・大学院の総計) ・外国語による授業科目数の割合は、目標とした15%以上を今年度に達成した(21.9%)(学部・大学院の総計)

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	海洋政策科学部 教学委員会/教育活動評価・FD 専門部会			
課題の内容	海洋政策科学部は一期生が令和6年度に初めて卒業生を出すことになるが、卒業後、一定年限を経過した卒業生及び就職先や進学先等の関係者へ効率的に意見を聴取する手段が未定である。			
課題とした根拠資料等	R5 自己点検・結果報告書			
対応計画 (改善方策) (時期も記載してください)	卒業後、一定年限を経過した卒業生及び就職先や進学先等の関係者へ効率的に意見を聴取する手段を検討し確立する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 (自己点検・評価時)	令和5年度 (進捗状況確認時)
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 卒業後、一定年限を経過した卒業生へ効率的に意見を聴取する手段を検討中である。なお、就職先や進学先等の関係者には、既に意見聴取を実施している。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	卒業後、一定年限を経過した卒業生へ効率的に意見を聴取する手段を検討中である。なお、就職先や進学先等の関係者には、既に意見聴取を実施している。			
今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)	令和7年3月の海洋政策科学部一期生卒業後一定年限経過後（令和9年頃予定）の実施に向けて、引き続き、卒業生へ効率的に意見を聴取する手段を検討する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	海洋政策科学部 広報委員会、教学委員会/教育活動評価・FD 専門部会			
課題の内容	本学部への受験が「有名な」、「国立大学の」、「地理的条件があっている」等の理由で選ばれる傾向が強まっている。また、神戸大学に関する情報を学部ホームページから収集する割合が 2 年連続で減少している。ホームページを通して、本学部での教育や研究の魅力が受験生により伝わるように対応する必要がある。			
課題とした根拠資料等	令和 5 年度入学時アンケート			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	2025 年度の新大学院設置に合わせて、学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等を検討し、より魅力的な情報発信を目指す。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 神戸大学大学院海事科学研究科 広報・社会交流推進委員会において、2025 年度の新大学院設置に合わせて、学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等の検討を進めている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	神戸大学大学院海事科学研究科 広報・社会交流推進委員会において、2025 年度の新大学院設置に合わせて、学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等の検討を進めている。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	2025 年 4 月 1 日のホームページ更新に向けて、引き続き神戸大学大学院海事科学研究科 広報・社会交流推進委員会で学部及び大学院のホームページの構成、コンテンツ等の検討を進める。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	人文学研究科			
課題の内容	入学時アンケートの回答率向上			
課題とした根拠資料等	令和5年度 入学進学時アンケート集計結果（全学共通・選択式）			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	入学時アンケートを4月のガイダンスの際に実施する（来年度以降）			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 博士課程前期課程の新生ガイダンスにおいて「入学時アンケート」の実施を検討した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	今後は毎年度の「新生ガイダンス」の時間内に「入学時アンケート」を実施・回収するように実施計画に予定を組み込む。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	博士課程前期課程の新生ガイダンス（4/5）において「入学時アンケート」を実施する。			

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会 </p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p>		
<p>・法学研究科実務法律専攻（法科大学院）について、カリキュラム改正や法科大学院認証評価基準の改訂への対応</p>		
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与方針、教育課程方針 ・カリキュラムマップ ・教育上主要と認める授業科目 ・法科大学院運営委員会および専攻会議において、各授業科目の成績評価や単位認定について確認をしていることを、議事録に記載すること ・成績に対する異議申立て制度 	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>法学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>年度内に改訂し、または実施する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他（ ） </p>	
<p>進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与方針、教育課程方針、カリキュラムマップを改定した（令和4年12月7日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価不服申立に関する内規」を改定した（令和5年1月5日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価基準に関する細則」を改定し、成績評価につき所定の割合が守られていることを実務法律専攻長が専攻会議において報告することなどを定めた（令和5年2月1日実務法律専攻会議）。 	
<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目を定めた（令和5年4月26日法科大学院運営委員会）。 	

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	経済学研究科			
課題の内容	今年度から異分野共創型修士プログラム（KIMAP）の開始にともない、経済学研究科アドミッションポリシーと研究科規則を更新する必要がある。また 5 年一貫経済学国際教育プログラム（IFEK）に関する文書の改正も必要となる。			
課題とした根拠資料等	https://www.econ.kobe-u.ac.jp/kimap-kobe-university-interdisciplinary-master-program/			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	<ul style="list-style-type: none"> ● 教授会において改正を審議・承認する。 ● 令和 5 年度 10 月入学者用学生便覧に改正箇所を反映させる。 ● 令和 6 年度学生便覧に改正箇所を反映させる。 			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● 教授会において改正を審議・承認済み。（根拠資料：令和 5 年度第 2 回経済学研究科教授会(1)資料 6，令和 5 年度第 3 回経済学研究科教授会(1)資料 1，令和 5 年度第 3 回経済学研究科教授会(1)資料 13） ● 令和 5 年度 10 月入学者用学生便覧に改正箇所を反映済み ● 令和 6 年度経済学部学生便覧の原稿には反映させているが、まだ最終版は発行されていない。 			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 5 年 10 月入学者用学生便覧には反映済みであり、令和 6 年度経済学部学生便覧に関しては、修正を反映させるために校正中である。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	令和 6 年度学生便覧に改正箇所を反映させる予定である。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 3 年 12 月			
対応計画の実施主体	経営学研究科			
課題の内容	博士後期課程への進学希望者が若干減少する傾向があり、それに対応して民間企業への就職の割合が増加する傾向がある。			
課題とした根拠資料等	令和 3 年度・令和 4 年度・令和 5 年度「入学・進学時アンケート」			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	博士後期課程への進学を決定するにあたって重要と思われる情報を、研究科ホームページから可能なかぎり積極的に発信する。また内部進学者を増加させる取り組みとして、大学院説明会の開催を行う。さらに、奨学金など経済的支援の充実について検討を行う。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 今年度、募集が行われた次世代研究者挑戦的研究プログラムに、2 名の後期学生が採択された。また、文理融合フェローシップの助成において、後期課程在籍学生の 3 名がフェローとなっている。研究科では 2 つの部局内センターが設置されているが、うち 1 つの中小 M&A 研究センターで、大学院生に対する研究助成金募集を行った。さらに、大学院説明会を 6 月に行った。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	上記課題を解決できるように、学術目的で海外へ渡航する大学院生を助成により補助し、さらに今年度から大学院説明会を行うことで大学院博士課程の魅力を周知している。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	当研究科では、助成による金銭的な支援があることや、後期課程進学の後多数の修了者が職業研究者になっていることなどの魅力を伝えることをはじめ、情報発信を積極的に行う。			

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）			
確認年月	令和3年12月			
対応計画の実施主体	経営学研究科			
課題の内容	入学者進路に関して、大学院への進学と回答した学生の割合は、全学平均と比較して著しく低い。			
課題とした根拠資料等	令和3年度「入学・進学時アンケート」			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	経営学部からの内部進学者を増加させる取り組みとして、大学院説明会や新入生オリエンテーション等で、大学院の魅力や5年間で修士号を取得できるKIMERAプログラムおよびKIMAPコースについて積極的に発信する。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 経営学部生の大学院での研究に対する関心を高めることを目的として、大学院説明会を6月に行った。また、部局間協定による留学派遣（KIBER）を前提としたKIMERAプログラムと、GMAPs後継プログラムとなるKIMAPについて周知を行った。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	上記課題を解決できるように、4月の学部新入生オリエンテーションにおいて、大学院進学について説明を行い、さらに今年度から大学院説明会を行うことで大学院博士課程の魅力を周知している。また、KIMERAコースおよびKIMAPプログラムについて徹底した周知を行っている。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	学部新入生オリエンテーションにおいて、大学院進学について説明を行い、さらに大学院説明会を継続する。また、KIMERAプログラムおよびKIMAPコースについての周知を継続する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	理学研究科			
課題の内容	シラバスの記載内容が不十分（分析項目6-4-3）			
課題とした根拠資料等	機関別認証評価における大学改革支援・学位授与機構（NIAD）の指摘事項			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	令和5年度中に、シラバスの記載内容を改善する			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 改善方策についてR4年度の教務委員会で検討し、R4年12月の理学研究科教授会において、シラバスの記載方法等について説明した。R5年度のシラバスについて、R5年2～3月に各専攻の教務委員会委員が内容を確認した。さらに、R5年度の教務委員会がシラバスの確認・修正状況に関して対応済みであることを確認した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況				
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	保健学研究科			
課題の内容	大学院生への就職支援			
課題とした根拠資料等	修了時アンケート			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	学生安全委員会（7月26日）実施において、修了時アンケートの記述において、大学院生の就職支援について意見があったことから、大学院生にも学部生に行っている就職ガイダンスを案内することを審議承認した。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 10月から実施する就職ガイダンスについて、大学院生も参加する可能性がある旨、「マイナビ」の担当者と打合せを行い、了解をもらっている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和6年度向け「マイナビ」就職ガイダンスを大学院生にも、うりぼーネットを通じ、周知、案内している。就職資料室においても、大学院用求人コーナーを設置した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	保健学研究科			
課題の内容	他研究科や他分野との研究の推進			
課題とした 根拠資料等	修了時アンケート			
対応計画 (改善方策) (時期も記載してください)	神戸大学保健学研究科リカレント事業 10月～ ウェルビーイング教育プログラム実施要項について 来年4月 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」 来年4月			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 (自己点検・評価時)	令和5年度 (進捗状況確認時)
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 神戸大学保健学研究科リカレント事業 「地域共生社会の牽引人材を育成する重層支援Dxに関するリカレント教育プログラム」に関しては10月より実施予定。 ウェルビーイング教育プログラム実施要項について 人間発達環境学研究所と来年4月より実施予定。 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」 来年4月については、神戸大学医学研究科、近畿大学、大阪公立大学、関西医科大学、兵庫医科大学と協定を結び、来年4月より実施予定。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	がんプロフェッショナル養成コース、ウェルビーイング教育プログラムの規則整備。 デジタル医工創成学コースにおける他研究科の科目を履修条件の緩和の為の規則整備			
今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	農学研究科			
課題の内容	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」。「外国語の運用・表現能力」は「十分身についた」「ある程度身についた」の合計が令和元年度～4 年度間で 45-65%の間で推移している。国際化を重視化する農学研究科ではより質の高い英語教育に力を入れたい。			
課題とした根拠資料等	令和 4 年度「卒業・修了時アンケート」集計結果に関する対応調査票 総合評価指標（大学指定指標）に係る令和 4 年度実績値			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度にフィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）、ネブラスカ大（UNL）、ジョージア工科大学（GT）との講義・演習の再開・継続を目指す。 令和 5 年度に総合評価指標（大学指定指標）（7-1-1）国際共同教育による授業科目数を（7-1-2）外国語による授業科目数の割合の増加を目指す。 			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	☑ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	<ul style="list-style-type: none"> UPLB：フィリピン大学ロスバニョス校： <ul style="list-style-type: none"> 「Intermediate Techniques in English Speech Delivery」5/月上旬- 8/月上旬で実施済み 「Comprehensive Techniques in English Speech Delivery」5/月上旬- 8/月上旬で実施済み UNL：ネブラスカ大： <ul style="list-style-type: none"> 「UNL 農学応用英語研修」を渡航期間 9/17～10/1 で実施した GT：ジョージア工科大学： <ul style="list-style-type: none"> 「Advanced Energy, Environment and Policy」6/26～7/26 で実施した 国際共同教育による授業科目数は令和 4 年度の 4 講義から、9 講義に増加し目標を達成（令和 5 年 12 月） 外国語による授業科目数の割合は令和 4 年度の 7.49%, から 21.9%に増加し目標を達成（令和 5 年 12 月） 			

	<ul style="list-style-type: none"> 世界展開力強化事業「食」を通して持続可能な世界を実現するグローバル人材育成のための異文化共修型国際プログラム」に当部局主導で申請・採択され(5年間、総額1.4億)、上記対応計画に弾みをつけることができた。
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	<p>現在のところ、令和6年2-3月予定されているUPLB実習以外、すべての対応策と数値目標が達成できている</p>
<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記進捗状況に示した海外提携校との講義・演習の再開・継続は、令和6年2-3月予定されているUPLB実習を除き達成済み 国際共同教育による授業科目数は、目標とした8講義を今年度に達成した(9講義)(学部・大学院の総計) 外国語による授業科目数の割合は、目標とした15%以上を今年度に達成した(21.9%)(学部・大学院の総計)

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	農学研究科			
課題の内容	入学時アンケートの割合が低い（令和4年度:9.3%, 令和5年度:16.8%）			
課題とした根拠資料等	～令和5年度入学・進学時アンケート_回答率			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	・令和6年度の入学・進学時におけるガイダンス時にアンケートを実施する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	☑ 検討中	☑ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☐ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	・令和5年8月までに企画調整室グループと教務学生係メンバーと複数回解決策の検討を行い、上記の対応計画を策定した。具体的には、マイクロソフト Teams を利用し、令和6年度の入学・進学時におけるガイダンス時にアンケートを実施することとした。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和6年度の入学・進学時ガイダンスにおけるアンケートの具体策を設定した			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	・ガイダンス時に向けたアンケート対応の具体策を実施する。			

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会 </p>	/
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	/
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p> <p>○分析項目 6-1, 6-2, 6-3: 令和7年4月に予定されている大学院改組に向けた現研究科の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針検討。</p>		
<p>内容</p>	<p>令和7年4月の大学院改組に向けて、部局内で組織された大学院改組WGを中心にして、現研究科における従来の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針の策定及びカリキュラムの検討を行っている。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>海事科学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>現研究科の総括に基づき、新しい学位授与方針及び教育課程方針を策定すると共に、同方針に相応しい水準にある体系的な教育課程の編成及び授業科目の内容等を計画していく予定である。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 () </p>	
<p>進捗状況</p>	<p>大学院改組WGにおいて、現研究科の教育研究の総括に基づき、新しい大学院の組織(研究科、専攻、コース、教育研究分野など)、ポリシー関係(AP、DP、CP)、カリキュラム(開講科目、英語での実施科目、開講時期、担当教員、修了要件など)が検討され、令和5年6月21日開催の教授会で承認された。</p>	
<p>今後の予定</p>		

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	海事科学研究科 教学委員会/教育活動評価・FD専門部会、入試委員会			
課題の内容	学部入学時アンケートによれば、本学部設置後の3年間、大学院への進学希望の割合が年々増えている（2021：48.4% → 2022：57.1% → 2023：62.0%）。この割合は、現在の学部定員（200名）対大学院定員（75名）の比37.5%よりもかなり高い。海事科学部の最後の学年が受験した本年8月実施の大学院入試（一般）の結果を見ると、コースによっては合格率6割程度の狭き門になっている。来年度、海洋政策科学部一期生が大学院受験を迎えるが、入学時アンケートの結果がそのまま反映されると仮定すれば、受験者が更に増加することも考えられる。それ故、新大学院の定員管理の観点から、ここ数年は受験者動向を注意深く見る必要がある。			
課題とした根拠資料等	令和5年度入学時アンケート（学部）、大学院入試状況等			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	2023年度中に、今年度で終了する現大学院入試について、2017年度の改組以降の8年間について、受験動向の分析と取りまとめを行う。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 2023年度中に、今年度で終了する現大学院入試について、2017年度の改組以降の8年間について、受験動向の分析と取りまとめを行った。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	2023年度中に、今年度で終了する現大学院入試について、2017年度の改組以降の8年間について、受験動向の分析と取りまとめを行った。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	国際協力研究科			
課題の内容	学位論文指導体制検証			
課題とした根拠資料等	教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	前回認証評価で指摘され、令和4年度から導入した研究指導計画書に基づく学位論文の指導体制が効果的に運用されているかを確認し、更なる問題点がないかを、令和5年度内に確認し、改善すべき点を検討する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 研究指導計画書の作成、提出については実現したが、その内容の充実、更には作成比率の向上については、依然として取り組むべき課題がある。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	認証評価分析項目 6-3-4 に対応すべく、「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制を効果的に運用するため、2024年2月教授会で提出状況等を確認した。また作成率の向上についても、課題点を審議した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	作成率の向上については、休学者も含めた学生との連携強化が課題として挙げられた。令和6年度中に、課題解決に向けた学生との連携強化を目的として連絡を密に行い、研究指導の効果を上げるべく各指導教員が実施していくことを確認した。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	<p>（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）</p>			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	国際協力研究科			
課題の内容	シラバスの記載内容の検討			
課題とした根拠資料等	教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	個人指導等が中心となる単位科目を中心に、成績評価基準に則り、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われているかを令和5年度内に確認する。また同じ期間に、この検討・確認を行う為のシステムを確立する。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	<p>※上記の進捗状況について具体的に記載してください。</p> <p>前年度までにシラバスの内容確認については既に対応していたが、その改善の方向性の検討及び充実については継続して取り組んできた。特に明確な成績評価基準を示すよう、また研究指導のような個人指導を含む授業に関する記載について研究科独自に資料を作成し、教授会で配布した。また2023年12月教授会で具体的な記載内容の状況報告を行い、更に取り組むべき改善内容を審議した。</p>			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	<p>認証評価分析項目6-4-3、6-6-2、6-6-3に対応すべく、成績評価関係のシラバス記載内容の確認を教務委員会が行い、2023年12月教授会で各授業科目の成績評価や単位認定について適切な運用がなされているか教授会において確認した。教務委員長より明確な成績評価基準を記載するよう改めて指示があった科目は昨年度比約25%減となり、継続的な取組の効果が現れた。</p>			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	国際協力研究科			
課題の内容	修了生の学修成果検討			
課題とした根拠資料等	教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	修了生について意見聴取できる資料を用意するための仕組みを活用し、アンケート調査を行い、今後の教育の改善の為の参考資料を作成する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	☑ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☑ 対応中	☑ 対応中	☐ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☑ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 電子メール等を巡る意見聴衆の枠組みを構築し、メールニュースの発信やメール受信状況の詳細の確認を行った。またアンケート調査項目を検討し、2024年3月に実施することを決定した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	認証評価分析項目6-8-4への対応とし、継続的に修了生から意見聴取する仕組み「修了生メールニュース制度の構築について」を2023年1月教授会決定し、修了生にメールで意見聴取できる仕組みを構築した。2023年9月までに計6回のメールニュースを配信し、その受信状況を随時確認している。2024年3月には「大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」の修了生からのアンケート調査を行うことが決定した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	2024年3月及び2024年9月に実施する修了生のアンケート結果について、2024年度中に組織的に確認し、社会における教育の効果を確認し、今後も継続して学習成果が得られるよう検討する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	科学技術イノベーション研究科			
課題の内容	・令和 5 年度に採択された文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」を令和 6 年度より本格実施するにあたり、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を改正する必要がある。（分析項目 6-1-1）			
課題とした根拠資料等	・本事業では大学院のリカレント教育に係る組織内改革として、リカレント教育に関する内容をディプロマ・ポリシーに追加することが求められている。			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	・令和 5 年度中に博士課程前期課程及び博士課程後期課程のディプロマ・ポリシーを同事業の実施計画に即した形で改正する。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 ・令和 5 年 8 月に同事業の採択が決定し、ディプロマ・ポリシーの改正に向けて研究科内で具体的な内容を協議している。 ・令和 5 年 12 月 25 日科学技術イノベーション研究科研究科教授会で DP の改正について審議・承認した。 ・令和 6 年 1 月 10 日 大学教育推進委員会 了承 ・令和 6 年 2 月 15 日 教育研究評議会 了承			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	・「進捗状況」欄に同じ			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	・令和 5 年度中に博士課程前期課程及び博士課程後期課程のディプロマ・ポリシーを同事業の実施計画に即した形で改正する。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	科学技術イノベーション研究科			
課題の内容	・外国語の運用・表現能力の獲得（修了時アンケート分析課題）			
課題とした根拠資料等	・修了時アンケートで外国語の運用・表現能力が「十分身についた」もしくは「ある程度身についた」と回答した割合が34.8%と、他の能力より小さい割合であった。			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度中に、外国語の運用・表現能力をより身に付けさせるための方策を定める。令和6年度より、改善方策に沿った授業等を実施する。 ・各研究室で行うM2前期授業「プレゼンテーション演習」において、英語での研究発表を必須とする（その旨をシラバスに記載する。） ・指導学生に対し、国際学会や海外で行われるサマースクール等への積極的な参加を促す。 			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 ・令和5年9月の教務・入試委員会、運営会議及び研究科教授会で、授業及び研究発表における英語使用の現状と課題について意見交換を行い、外国語の運用・表現能力の改善方策を決定した。 ・令和6年度「プレゼンテーション演習」のシラバスに以下を追記した。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際学会や海外で行われるサマースクール等への積極的な参加を促す。 ・本授業において学生は、必ず1回は英語によるプレゼンテーションを行うこととする（例えば研究成果発表会や国際会議での発表内容等）。 			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	・令和6年度「プレゼンテーション演習」のシラバスに英語での研究発表を必須とする旨を明記した。			

<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<ul style="list-style-type: none">・当該科目の令和6年度シラバスに英語での研究発表を必須とする旨を明記し、指導教員及び対象学生に周知する。令和6年度より実際の演習の中で英語による研究発表を行わせる。・令和6年度末には修了時アンケートで、外国語の運用・表現能力の獲得についてアンケートを行う。
---	---

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	大学教育推進委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	科学技術イノベーション研究科			
課題の内容	・博士課程後期課程への進学を検討している学生の割合が増加しており、進学支援策を充実させる必要がある。（入学・進学時アンケート分析課題）			
課題とした根拠資料等	・入学時・進学時アンケートで、修了後の進路として博士課程後期課程への進学を検討している学生の割合が増加している（2021年度：6.8%、2022年度：12.5%、2023年度：20.5%）。			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	・これまで冬に就職ガイダンスと併せて実施していた進学ガイダンスを、令和5年度より、自身の研究並びに就職活動が本格化する前（5月頃）に開催することで進学希望を継続し易い環境を提供する。また、進学ガイダンスを年複数回実施するなど、その他の進学支援策を策定・実施する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 ・令和5年5月29日に、博士課程前期課程1年生を対象とする博士課程後期課程の進学ガイダンス（M1生対象）を実施し、博士課程前期課程1年生44名のうち31名の参加があった。 ・令和5年11月20日に企業でイノベーションフェローを務める外部講師を招き、主に博士課程前期課程1年生を対象としたキャリアガイダンスを新たに実施し、39名が参加した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和5年11月20日に企業でイノベーションフェローを務める外部講師を招き、主に博士課程前期課程1年生を対象としたキャリアガイダンスを開催した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	・令和5年度中に、対応済みの進学ガイダンスの早期実施以外の進学支援策を策定し、適宜実施する。			

学生受入に係る自己点検・評価の実施について

令和5年10月6日付「教育課程、学生の受け入れ、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について（依頼）」（別紙1）を受け、次のとおり学生受入に係る自己点検・評価を実施する。

実施にあたっては、入学者選抜に係る内部質保証実施要項（令和3年2月26日入学試験委員会改定）（別紙2）に基づき行うものとする。

【評価事項】

- (1) 学生受入方針（以下「AP」という。）に関すること
APの改善状況について評価を行う。

【評価結果】

学生受入方針に関し、点検評価の結果、令和元年度には求める学力の3要素を明記するなど大幅な改定を実施し、令和3年度には学部ごとに表記が異なっていた同義の語句を統一するなどの改善を実施してきた。

これらの改定により、改善は実施済みであり、学生受入方針に関して順調に進んでいることを確認した。

- (2) 学生の受入の実施に関すること

入学者選抜の重要な変更に関すること（主に2年前予告に関する事項）や入試ミスの発生状況に関する事項等により評価を行う。（別添資料1-1、1-2）

【評価結果】

学生の受入の実施に関し、高等学校学習指導要領の改訂に伴う令和7年度入学者選抜で本学が課す教科（科目）等の変更および令和7年度から新設・改組する学部・学科の入試方法等の重要事項について、本学ホームページで予告を行った。

点検評価の結果、高等学校学習指導要領の改訂に応じた入試方法の変更や新設する学部・学科等入試方法について重要事項に関する予告を適切に行っており、概ね順調に進んでいることを確認した。

なお、一部の入学者選抜において入試ミスが発生したが、適切に対応するとともに対応策を定め実施していることを確認した。

- (3) 入学者数、入学定員等に関すること

それぞれの学部・研究科における入学者数、入学定員等について評価を行う。（別添資料2）

【評価結果】

入学者数、入学定員等に関し、点検評価の結果、概ね順調に受け入れていることを確認した。

ただし、経営学研究科及び理学研究科の博士課程後期課程では、過去5年間（令和元年度～5年度）における入学定員の充足率が基準を下回っていることから、改善策を検討し、適切な対応を進める必要があることを確認した。

令和7年度入試（令和6年度実施）

HOME > 入試情報 > 令和7年度入試（令和6年度実施） > 令和7年度（令和6年度実施）神戸大学入学者選抜入試方法等の変更につ

令和7年度（令和6年度実施）神戸大学入学者選抜入試方法等の変更について

2023年10月23日

令和5年3月23日に公開の「令和7年度（令和6年度実施）神戸大学入学者選抜入試方法等の変更について」につきまして、内容を変更しました。

[令和7年度（令和6年度実施）神戸大学入学者選抜入試方法等の変更について（2023年10月23日変更 2023年10月30日修正）](#) 

変更点は以下となります。

- 医学部医療創成工学科（仮称）の新設に関するもの
 - ・アドミッションポリシー（11ページ）
 - ・大学入学共通テスト及び個別学力検査等における教科・科目並びに教科別配点（33ページ）
- システム情報学部（仮称）の新設に関するもの
 - ・アドミッションポリシー（14ページ）
 - ・大学入学共通テスト及び個別学力検査等における教科・科目並びに教科別配点（38ページ）
 - ・学校推薦型選抜（女子枠）（58～59ページ）
 - ・「志」特別選抜（62ページ、64～65ページ）
 - ・私費外国人（留）学生特別選抜（66ページ）
- 医学部保健学科の入学定員・募集人員に関するもの
 - ・看護学専攻 前期日程の募集人員変更及び後期日程の廃止（34ページ）
 - ・看護学専攻 「志」特別選抜の募集人員変更（60ページ）
- 工学部入学定員・募集人員に関するもの
 - ・建築学科、市民工学科、電気電子工学科、機械工学科、応用化学科の募集人員変更（36～37ページ）
- 大学入学共通テストにおける旧教育課程履修者等に対する経過措置に関するもの（17～18ページ）
- 医学部医療創成工学科、医学部保健学科看護学専攻、工学部、システム情報学部の入学定員・募集人員の変更点まとめ（67～69ページ）



受験生応援サイト

神戸大学受験生ナビ



資料請求



受験生応援サイト

神戸大学受験生ナビ

国立大学法人 神戸大学学務部入試課

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 TEL: 078-803-5230

© 2023 Kobe University. All Rights Reserved.

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

学生受入の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

						令和5年度			
						令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況	①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
1	入学試験委員会	経営学研究科及び理学研究科	博士課程後期課程において、過去5年間（令和元年度～5年度）における入学定員の充足率が基準を下回っている。	令和5年11月	対応中	①入学定員充足率が基準を満たしていない研究科に対し、改善策を検討し、次年度以降における入学定員充足率の是正に向け、適切な対応を進めるよう指導する。 ②入学定員充足率が基準を満たしていない研究科については、改善策を検討し、次年度以降における入学定員充足率が是正されるよう適切な対応を進める。	対応中	②【経営学研究科】 経営学研究科博士課程後期課程において、(1)大学院説明会の開催：大学院に対する受験者の理解を深めること、および後期課程への進学意欲を高めることを目的とし、学生に向けて大学院説明会を複数回実施した。また、(2)全体FDの開催：研究者養成コースのカリキュラム改革について、研究科内で意見交換を行った。その結果、令和6年度の入学定員充足率は94%と大幅に改善した。 【理学研究科】 定員充足率充足率緩やかに増加してきている。なお、入試日程の新設、海外からの電子的申請の創設など工夫することにより受験者の増を回っているおり、その効果を見守っているところである。 ③【経営学研究科】 令和6年度の入学定員充足率が大幅に改善されており、今後も適正な入学定員充足率の維持に努める。 【理学研究科】 次年度以降における入学定員充足率が是正され、70%以上になるよう適切な対応を進める。	

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	入学試験委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	経営学研究科			
課題の内容	博士課程後期課程において、過去5年間（令和元年度～5年度）における入学定員の充足率が基準を下回っている。			
課題とした根拠資料等	学科・専攻毎の過去5年間の入学定員・志願者数・合格者数・入学者数・充足状況			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	入学定員充足率が基準を満たしていない研究科に対し、改善策を検討し、次年度以降における入学定員充足率の是正に向け、適切な対応を進めるよう指導する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 経営学研究科博士課程後期課程は、令和6年度における後期課程の入学定員充足率94%となり、昨年度（63%）と比較して大きく改善しており、かつ基準である70%も上回っている。令和6年度単年度の入学定員充足率でみる限り是正されている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	経営学研究科博士課程後期課程において、(1)大学院説明会の開催：大学院に対する受験者の理解を深めること、および後期課程への進学意欲を高めることを目的とし、学生に向けて大学院説明会を複数回実施した。また、(2)全体FDの開催：研究者養成コースのカリキュラム改革について、研究科内で意見交換を行った。その結果、令和6年度の入学定員充足率は94%と大幅に改善した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	令和6年度の入学定員充足率が大幅に改善されており、今後も適正な入学定員充足率の維持に努める。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	入学試験委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	理学研究科			
課題の内容	博士課程後期課程において、過去5年間（令和元年度～5年度）における入学定員の充足率が基準を下回っている。			
課題とした根拠資料等	学科・専攻毎の過去5年間の入学定員・志願者数・合格者数・入学者数・充足状況			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	入学定員充足率が基準を満たしていない研究科に対し、改善策を検討し、次年度以降における入学定員充足率の是正に向け、適切な対応を進めるよう指導する。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 理学研究科博士課程後期課程は、令和5年までの5年間の充足率が67%であり、令和6年春入学までの充足率が68%となり、幾分改善している。令和6年秋入学に関し、既に1名の合格者を出している。また5月入試を新設し受験者の増を図っているところである。海外からの受験者に関して電子的な申請を認めるなどの対策も講じた。複数の受験が見込まれ69%への向上は確実であり、更に70%以上を目指す。8月にも入試を実施する。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	定員充足率充足率緩やかに増加してきている。 なお、入試日程の新設、海外からの電子的申請の創設など工夫することにより受験者の増を図っているおり、その効果を見守っているところである。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	次年度以降における入学定員充足率が是正され、70%以上になるよう適切な対応を進める。			

[抜粋]

令和6年度
神戸大学大学院理学研究科博士課程後期課程
(2024年10月入学・進学)
学生募集要項 [第Ⅲ期]

1. 専攻及び募集人員

専攻	募集人員
数学専攻	若干人
物理学専攻	若干人
化学専攻	若干人
生物学専攻	若干人
惑星学専攻	若干人

(注) 募集人員には、外国人留学生及び社会人を含む。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和6年9月30日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年9月30日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年9月30日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和6年9月30日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(74条において「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和6年9月30日までに24歳に達するもの

【注】上記の(7)又は(8)により出願を希望する者については、出願前に個別の出願資格審査を行いますので、「9.出願資格の審査について」を参照してください。

3. 出願期間

令和6年4月8日(月)から令和6年4月11日(木)までです。

なお、受付時間は、9:00~12:00, 13:00~17:00です。

また、郵送により出願手続きをする場合は、令和6年4月11日(木)17:00までに必着するように投函してください。

4. 出願手続に必要な書類等

(1) 次の書類等を取り揃えて提出してください。なお、必要な書類等に*印を付しているものについては、本研究科所定の用紙を使用してください。

必要な書類等	摘 要
*① 入学(進学)願書	所定の事項を洩れなく記入してください。(様式第1号)
*② 履歴書	所定の事項を洩れなく記入してください。(様式第2号)
*③ 受験票	所定の事項を洩れなく記入してください。(様式第3号)
*④ 郵便振替払込受付 証明書貼付票(博士 課程後期課程)	所定の事項を記入し、所定欄に「郵便振替払込受付証明書(お客様用)」を貼り付けてください。(入学志願者用様式第4号)
*⑤ 検定料 30,000円	「出願時の検定料の納付について」(入学志願者用様式第5号)をよく読んで間違いのないように郵便局で納付し、「振替払込受付証明書(お客様用)」を様式第4号の所定欄に貼り付けて提出してください。 【注】1. 外国に居住する者は、P.8の「検定料のお支払い(海外から送金する場合のみ)」を参照して、検定料をお支払いの上、支払い完了の受信メールを印刷し、願書に添えて提出してください。 2. 日本国政府から現在奨学金を支給され、入学後も国費外国人留学生である者は不要です。ただし、在籍大学(神戸大学以外の場合)の発行する「国費外国人留学生証明書」を提出してください。 3. 令和6年9月に神戸大学大学院博士課程前期課程、修士課程、専門職学位課程を修了する見込みの者は不要です。
⑥ 写真	2枚。出願前3か月以内に撮影したもの(上半身、脱帽、正面、縦4cm×横3cm)を入学(進学)願書及び受験票の所定欄に貼り付けてください。
⑦ 修士課程修了証明書 又は修了見込証明書	出身大学院の研究科長又は学長が作成したもの 神戸大学大学院理学研究科博士課程前期課程から進学する者は、提出する必要はありません。
⑧ 成績証明書	(1) 出身大学の学部長又は学長が作成したもの (2) 出身大学院の研究科長又は学長が作成したもの 神戸大学大学院理学研究科博士課程前期課程から進学する者は、提出する必要はありません。
*⑨ 修士論文等	(a) 前期課程(修士課程)修了者 i) 和文又は英文の修士論文写(論文がない場合は、これに代わるものとします。) ii) 修士論文の概要(A4判):和文2,000字程度のもので及び英文1,200語程度のもので各1部。和英両方をセットし本研究科

	<p>の所定の用紙（様式第6号）を表紙として提出してください。ただし、外国人の志願者は、英文のみとします。</p> <p>(b) 前期課程（修士課程）修了見込の者又は出願資格申請者 研究経過報告書（A4判）：和文2,000字程度のもの及び英文1,200語程度のもの各1部。和英両方をセットし本研究科の所定の用紙（様式第6号）を表紙として提出してください。ただし、外国人の志願者は、英文のみとします。</p> <p>(c) 令和6年9月に神戸大学大学院博士課程前期課程、修士課程又は専門職学位課程を修了する見込みの者 研究経過報告書（A4判）：和文2,000字程度のもの1部又は英文1,200語程度のもの1部に本研究科の所定の用紙（進学志願者用様式第4号）を表紙として提出してください。</p> <p>(d) 上記以外の参考資料があれば、提出してください。</p>
*⑩ 研究計画書	和文2,000字程度のもの又は英文1,200語程度のもの1部。どのような分野でどのような内容のことを研究しようとしているのかが分かるようにA4判の用紙に記入し、本研究科の所定の用紙（様式第7号（進学者は5号））を表紙として提出してください。
⑪ 住民票等 （外国人のみ）	<p>日本に居住している外国人の志願者は、市区町村長の発行する「住民票の写し（30日以内に作成されたものに限る）」又は「在留カードの写し」を提出してください。</p> <p>神戸大学大学院理学研究科博士課程前期課程から進学する者は、提出する必要はありません。</p>
*⑫ 住所票（シール）	志願者に対して口頭試問の時間割・場所等を、また、合格者に対して合格通知書及び入学手続書類を送付するために使用します。（様式第8号（進学者は6号））

(2) 郵送による出願手続について

出願手続を郵送により行う場合は、レターパックプラス（520円）（品名に「**理学研究科博士課程後期課程〇〇学専攻入学願書類**（進学者は進学願書と記載）」と明記）又は**書留速達便**としてください。また、「受験票，受験者心得」を郵送するため、宛先を明記した返信用封筒（長形3号：縦23.5cm，横12.0cmで344円相当の切手を貼ったもの。）を必ず同封してください。

なお、書留速達便で郵送する場合、封筒の表に「**理学研究科博士課程後期課程〇〇学専攻入学願書在中**（進学者は進学願書と記載）」と朱書きしてください。

(3) 学生募集要項及び出願に必要な用紙を郵送で請求するときは、宛先を明記した返信用レターパックライト（370円）または封筒（角形2号：縦33.2cm，横24.0cmで380円相当の切手を貼ったもの。）を必ず同封してください。なお、郵送する封筒の表に「**理学研究科博士課程後期課程〇〇学専攻令和6年10月入学**（進学者は進学と記載）**学生募集要項請求**」と朱書きしてください。

(4) **外国に居住する者に限り**、入学願書等の出願に必要な書類を電子データにて送付しますので、理学研究科教務学生係宛に email にて請求してください。その際、件名を「**理学研究科博士課程後期課程〇〇学専攻令和6年10月入学**（進学者は進学と記載）**学生募集要項請求**」としてください。なお、出願書類の提出方法については email にて別途連絡します。

- (5) 出願書類等の提出・送付先及び照会先
 神戸大学大学院理学研究科教務学生係
 〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
 電話：(078)803-5767
 e-mail：sci-kyomu@office.kobe-u.ac.jp

【注意事項】

- (1) 出願手続後の記載事項の変更は認めません。また、納付した検定料は出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
- (2) 英語以外の外国語で作成された証明書等の書類については、日本政府又は外国政府の在外公館等の公的機関による翻訳証明を付した日本語訳を必ず添付してください。
- (3) 志願者は、入学（進学）願書に希望する指導教員名を記入してください。指導教員は「各専攻の講座，教育研究分野，教育内容及び担当教員」から選択してください。なお、入学（進学）願書に指導教員名の記入がない場合、出願書類は受理されません。また、志願者は指導教員予定者と密接な連絡をとり、研究計画書を作成してください。

5. 選考の方法

入学（進学）者の選考は、学力検査及び提出書類を総合して行います。
 学力検査は、口頭試問・質疑応答等によって、以下を中心として行います。

- ① 修士論文又は研究経過報告書の内容
 履修に必要な基礎学力を有しているかどうかを検査します。
- ② 英語の能力（外国の大学を卒業した外国人の志願者については英語及び日本語）
 履修に必要な語学力を有しているかどうかを検査します。
- ③ 研究計画書の内容
 学位取得に見合う研究計画であるかどうかを審査します。

6. 口頭試問の期日及び場所

専攻	期日	場所	集合時間等
数学専攻	令和6年5月8日(水)	神戸大学理学研究科 学舎	各志願者の口頭試問の会場、時間及び注意事項等は、後日、別途通知します。
物理学専攻	令和6年5月10日(金)		
化学専攻	令和6年5月17日(金)		
生物学専攻	令和6年5月10日(金)		
惑星学専攻	令和6年5月10日(金)		

(注) 気象状況等により日程等に変更がある場合には、理学研究科ホームページ

(<http://www.sci.kobe-u.ac.jp/>)の「入試情報」及び神戸大学理学研究科X(旧Twitter)アカウント(@kobeU_sci)でお知らせします。

(神戸大学理学部学舎への交通案内)

JR西日本「六甲道」駅、阪急電鉄「六甲」駅又は阪神電鉄「御影」駅から神戸市バス
 ○36系統「鶴甲団地」行きに乗車、「神大文・理・農学部前」下車、南へ徒歩3分。

7. 合格者発表

令和6年5月28日(火)午前10時(予定)に理学研究科ホームページに掲載するとともに、合格者には「合格通知書」を送付します。なお、電話等による照会には応じません。

学生支援に関する自己点検・評価の実施について

令和5年10月6日付「自己点検・評価の実施及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について（依頼）」（別紙）を受け、次のとおり学生支援に関する自己点検・評価を実施する。

実施にあたっては、学生支援に係る内部質保証実施要項（令和3年3月3日学生委員協議会改正。以下「実施要項」という。）及び留学生支援に係る内部質保証実施要項（令和3年2月18日留学生委員会改正）に基づき行うものとする。

【評価事項】

- (1) 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること。

【評価結果】

総合的相談、健康、就職・進路及び各種ハラスメントに関し、点検・評価した結果、「神戸大学学生の支援に関する規則」及び「学生の支援に関する基本方針」に基づき、相談・助言体制が整備され、必要な支援が行われていることを確認した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を発端として、保健管理センター、キャンパスライフ支援センター、キャリアセンターでは、対面相談のみならず Web 面談を取り入れ、学生への利便性を図っている。相談利用者向けに実施しているアンケートにおいて、利用制度に係る満足度は概ね高い。

なお、各種相談窓口の認知度向上を引き続きの課題と捉え、Web や配布物等による周知方法について検討・対応を継続する。また、学生からの意見聴取の仕組みとして、原則3年に一度実施することとしていた学生生活実態調査が、前回実施時（令和元年度）に大幅な設問変更を行ったものの回答率が1割に満たなかったことから見直しを検討しており、令和4年度中の実施に至っていない。学生への意見聴取の方策や実施の形態も含めて現在引き続きの検討課題としているところであり、令和5年度中に方向性を確認し、遅くとも令和6年度内に実施することとする。

- (2) 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること。

【評価結果】

課外活動施設設備の整備、運営資金・備品貸与の状況に関し、次のとおり点検・評価した結果、学生の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていることを確認した。

- ・課外活動への支援として、各キャンパスにグラウンドや体育館等の活動施設を設置し、備品の貸出等が行われている。
- ・地域連携推進本部ボランティア支援部門により、学生等及び学生団体へのボランティア・社会貢献活動にかかる支援（意識啓発、相談対応、情報収集、調査分析、学内外関係機関との連携等）や教育が行われている。
- ・保護者で組織される育友会からの助成金による支援や神戸大学基金からの活動費支援、卒業生からの寄附金による課外活動施設設備の整備等の支援も行われている。
- ・令和3年度に大学及び卒業生により構成される課外活動団体OBORG会連合会を設立し、課外活動支援体制を強化している。

なお、課外活動施設の老朽化対策を含めた施設の利便性向上等を引き続きの課題と捉え、クラブハウスの新設に向け創立120周年記念事業の一環として募金活動を行うとともに、課外活動団体OBORG会連合会とも協力し、外部資金獲得に努めることとする。

(3) 留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること。

【評価結果】

留学生への生活支援等の内容及び実施体制に関し、点検・評価の結果、グローバル教育センターを中心に、留学生に特化した形で、生活支援等にかかる諸課題に対応できており、組織立った形で体制整備が図られていることを確認した。

新型コロナウイルス感染症対策として、留学生への入国前の支援、入国後の待機施設の確保等、各種支援を行った。また、必要に応じ留学生後援会から新型コロナウイルス感染症特別貸付を行った。なお、新型コロナウイルス感染症の5類相当への移行に伴い、留学生後援会による新型コロナウイルス感染症特別貸付は令和4年度をもって終了したが、今後も緊急時の支援体制を含む留学生への生活支援等の一層の充実を目指し、積極的な募金活動を行い募金額増に努めることとする。

(4) 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること。

【評価結果】

障害のある学生に対する生活支援の内容及び実施体制に関し、点検・評価した結果、各学部・研究科が行っている学生支援はもとより、インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター障害学生支援部門による部局間をまたいだ学生支援の調整や障害学生をサポートする学生サポーターの教育・育成が行われていることを確認した。教職員に向けた障害のある学生支援への理解を促すFD・SDの開催として、具体的な障害学生支援という観点から、支援方法の情報共有として実際に発達障害の学生支援を行った教員からの体験報告を盛り込んだFDの実施や、実際の避難器具を利用する防災イベントを実施しているほか、障害学生支援部門運営小委員会委員の構成変更といった学内共同支援体制の強化にも努めていることを確認した。

なお、前回の課題における障害学生支援についての理解度向上及び学内共同支援体制の強化は、引き続き対応を実施し、支援の向上を図ることとする。

(5) 学生に対する経済面での援助を行っていること。

【評価結果】

大学独自の奨学金制度、入学料免除、授業料免除、寄宿舍の整備に関し、点検・評価した結果、新一年生を対象とした神戸大学基金奨学金をはじめ大学独自の奨学金制度の整備、留学生も含めた授業料免除等の実施、各学生寮の運営等、学生に対する経済的な援助が適切に行われていることを確認した。

民間企業による支援の新たな奨学金として、双日奨学金、イー・ギャランティ奨学金が追加され、より手厚い支援体制が構築されている。

新型コロナウイルスの影響による経済的困窮が生じた学生に対しては、神戸大学基金や育友会からの支援が行われていた。

老朽化対策が課題となっていた学生寮については、令和5年8月に寮生・保護者・寮生OBを対象にアンケートを実施し、寮の生活環境、寮費値上げ、寮の存続等に関する意見の聴取を行った。今後の取扱いについて引き続き検討していくこととする。

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

学生支援の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況	①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
1	学生支援協議会	学生委員協議会	学生に向けた各種相談窓口・各センターの認知度向上。 （何かしらの不安や悩みを抱える学生は多いが、相談先に大学を選ぶ学生は少なく、また、各種相談窓口の認知度は高いといえる状況にはないことが課題となっている。）	令和2年11月	対応中	①大学HPにおける相談窓口や各センターHPや、オリエンテーション時の配布物等を見直すことにより、学生への周知を図ることとする。令和3年3月20日頃を目途に、新入生向け学生生活オリエンテーションのWebページを公開する予定であり、そのページ内で各相談窓口の紹介を行う。 令和5年度中に実施される予定の大学HP更新に合わせ、相談窓口紹介ページの見直しを検討する。 ②令和3年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーションWebページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 令和4年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーションWebページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 令和5年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーションWebページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 大学HP更新に向けたコンテンツ構成の見直しに合わせ、相談窓口照会ページの見直しを図っている。	対応中 ②令和6年3月公開の大学HPにおいて、これまでよりも上位の階層で「学生支援」の名称を使用し、各相談窓口も含め支援内容へのアクセスの利便性向上を狙って更新を行った。 ③令和6年3月上旬に公開する新入生向け学生生活オリエンテーションWebページに各相談窓口の紹介ページを掲載する。
2	学生支援協議会	学生委員協議会	課外活動施設の老朽化対策を含めた施設の利便性向上。 （現在の部室棟（鶴甲一、ブロック積み）は、昭和36年に建設され、耐震基準を満たしておらず、また、部室に天井はなく屋根まで吹き抜けてあり、廊下側は2m程の壁で仕切られるのみとなっており、防犯面や室内環境は不適である。以前から改善を要しているものの、学内の他の修繕すべき施設との優先順位により改築の実施に至っていない。）	令和2年11月	対応中	①2019年11月に神戸大学基金創立120周年記念事業の一環として「クラブハウス新設」を立ち上げた。今後、学内外に向け広報等を積極的に行い、実現に向け募金額の増額を図るものとする。 キャンパス内に建物新築・改築するにあたり、自治体に未届出の既存建築物が問題となることが判明したため、施設部とも調整の上、課外活動関係の該当施設を洗い出し、法令に適合しないものについては必要予算を確保の上、建替えや改修を実施することで、今後の施設新築・改築を円滑に進める。 ②令和3年4月1日に大学と一体となって課外活動を支える組織として、課外活動団体OBOG会連合会が設立されたことから、引き続き課外活動団体OBOG会連合会と協力し、募金活動を行っていく。令和4年10月から令和5年2月にかけて部室棟の内壁改修工事を実施し、従来のブロック塀をなくすことで、利用者の安全面の強化を図った。 未届出既存建築物の対応については、施設部からの照会に基づき令和5年度中に対象施設の洗い出し作業を行う。その後、建替え・改修要否の検討及び予算確保方策の検討を進める。	対応中 ②公認課外活動団体に部室の利用状況に関するアンケートを実施し、部室や倉庫等の現状把握を行った。 ③上記アンケート結果に基づき、令和6年2月中に公認課外活動団体の部室・倉庫のニーズを把握する。この内容を施設部と共有の上、今後の施設新築・改築について検討する。
3	留学生委員会	グローバル教育センター	留学生への生活支援等の一層の充実及び災害時等の臨時支援体制の整備	令和2年11月	対応中	①奨学金の拡充等の留学生への生活支援等の一層の充実及び災害時等の臨時支援を目的として、令和2年10月に「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」を新たに立ち上げた。今後は、国内外への広報等を積極的に行い、募金額の増額を図るとともに、定期的に支援内容の見直しを図り、さらなる充実を図る。今後、委員会や同窓会等の様々な機会でも積極的に広報活動を行い、本募金の認知度を上げつつ、募金額の一層の増額を図っていく。 ②令和3年1月に神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」に関する情報を掲載するとともに、「神戸大学東日本同窓会」、「神戸大学留学生西日本同窓会」において、同窓生に対して、募金の呼びかけ等を行うなど、国内外向けに広報を行い、引き続き募金受付を行った。 立ち上げ（令和2年10月）から令和5年3月までの募金実績は27名860,000円。	対応中 ②神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」に関する情報を掲載するとともに、令和5年7月に開催した「神戸大学留学生西日本同窓会」、及び令和6年2月に開催した「神戸大学留学生東日本同窓会」において、同窓生に対して募金の呼びかけ等を行い、引き続き国内外向けに広報を実施した。 ③引き続き神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、情報を掲載するとともに、「神戸大学留学生西日本同窓会」（令和6年7月開催予定）、「神戸大学留学生東日本同窓会」（令和7年2月開催予定）で募金の呼びかけ等を行うなど、国内外向けに広報を実施する。
4	留学生委員会	学務部国際交流課	新型コロナウイルス禍での外国人留学生入国時の支援	令和3年2月	対応済	①本人と綿密に連絡を取りつつ、公共交通機関以外のハイヤー等の手配及びホテル等の一時待機期間中の宿泊施設の確保、一時待機中の体調の状況把握等、一時待機終了後の入寮手続き等まで、当該部局・委託業者等と連携し、一貫した支援体制を整備し、外国人留学生が入国後、不安なく滞在出来るよう支援する。 令和4年3月からは、一時待機用宿泊施設として学生寮を提供。入国のための文科省の連絡等もふくめ留学生の所属部局と連携して上記支援を行う。 ②受入大学として入国前の政府機関への連絡や、入国後の一時待機等について、留学生の所属部局とも連携し円滑な入国、及びその後の滞在について支援した。	
5	学生支援協議会	キャンパスライフ支援センター	障害学生支援についての理解度向上及び学内協働支援体制の強化。 （授業担当教員へのアンケート結果等から、障害学生への修学支援について、年々理解が広がっているものの浸透していない点も見受けられる）	令和2年11月	対応済	①障害並びに法的義務への理解を深めるため、教職員に向けたFD・SDの機会を増やすこととともに、大学全体での協働支援体制の強化について、検討・対応することとした。 キャンパスライフ支援センター運営小委員会の組織について、大学全体での協働支援体制の強化に向け、各学術系列からの委員選出等構成に関する検討を令和3年度内に行う。 ②令和3年度内に、センター会議でそれまでは専門性重視で一研究科の教員のみが委員となっていた小委員会組織を次年度から各学術系列から代表委員を選出する形式に変更することを諮り決定した。FD・SDを実施した。 令和4年度、各学術系列から選出された運営小委員会委員とともに合理的配慮について検討し、障害学生支援への理解と協働支援体制の強化に努めた。FD・SDを実施した。 令和5年度、学生とともにPBL型の演習参加を教職員に案内する等、障害への理解を深める機会の提供を行った。	対応済 ②令和6年2月に音声情報の文字化を専門としている外部団体と連携し、主に聴覚障害についての講義と必要とされる具体的な支援技術を学ぶ研修会を学生対象に実施した。 ③令和6年4月改正施行の障害者差別解消法に合わせ文部科学省が現在取りまとめている障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第三次まとめ）について、発表後に内容を案内する資料や理解を深めるための施策を令和6年度中に検討、実施する。

				令和5年度			
				令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況	進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
6	学生委員協議会	学生委員協議会	学生寮の老朽化対策を含めた施設の利便性向上。 （特に昭和30年代に建築されている白鷗寮は改修が行われているものの現在も4人がシャワーと台所を共同利用している状況であり、昨今の新型コロナウイルス感染症を鑑みると感染拡大のリスクが高い。）	令和2年11月	対応中	①対応計画（改善方針） ②進捗状況 ③今後の予定	②引き続き、民間資金を活用して、学生寮を整備する事業の可能性について複数の業者から提案を受け付けている段階である。提携寮は予定どおり、令和6年4月開寮となる。 ③令和6年4月以降、業者から提案された後、その提案を分析の上、寮建物の建て替え・大規模改修・寮の廃止・存続を含めた新基本方針（案）を作成し、各会議体において、審議していく予定としている。
7	学生委員協議会	保健管理センター	新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生のメンタルヘルスへの考慮。	令和3年3月	対応済	①新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うストレスを受ける学生の心身の健康維持のため電話やWebを活用した相談・カウンセリングを行う。 ②コロナ禍の3年間で、対面による「こころの健康相談」以外にも、WEBによる相談システムを着実に構築して相談業務は順調に継続できた（コロナ禍のピーク時は相談件数全体の約70%が非対面であった）。その後、現在はコロナ禍も一段落して、対面相談の希望が増えている状況である。	②令和5年5月に政府によって新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更された。それに伴い大学の感染対応等も通常に戻ったため、こころの健康相談の大多数が対面に戻った（希望者のみ非対面対応中）ことで解決した。
8	学生委員協議会	学生委員協議会	学生生活に関する学生からの意見聴取について（これまで3年毎に「学生生活実態調査」の名称で実施していたアンケートについて、前回実施時（令和元年度）に設問の大幅な内容変更及び回答手法の変更を行ったものの1割に満たない回収率であったことから、有用な意見の収集方法を検討するとして令和4年度実施を見送っている。令和4年度の学生意見は利用制度毎のアンケート収集のみとなり、今後の方策等の検討が課題となっている。）	令和5年11月	対応中	①学生からの意見聴取の方策等について令和5年度中に確認し、遅くとも令和6年度中に実施する。 ②令和5年度中に意見聴取の方策等について確認する。	②令和6年2月9日からMicrosoftFormsを利用した学生生活アンケートを実施している。（令和6年3月21日迄） ③令和6年度中に今回実施のアンケート結果発表及び次回令和7年度予定の学生アンケート実施体制を検討する。

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 2 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	学生委員協議会			
課題の内容	学生に向けた各種相談窓口・各センターの認知度向上。 （何かしらの不安や悩みを抱える学生は多いが、相談先に大学を選ぶ学生は少なく、また、各種相談窓口の認知度は高いといえる状況にはないことが課題となっている。）			
課題とした根拠資料等	学生アンケート等			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	大学HPにおける相談窓口や各センターHPや、オリエンテーション時の配布物等を見直すことにより、学生への周知を図ることとする。令和3年3月20日頃を目途に、新入生向け学生生活オリエンテーションのWeb ページを公開する予定であり、そのページ内で各相談窓口の紹介を行う。 令和5年度中に実施される予定の大学HP 更新に合わせ、相談窓口紹介ページの見直しを検討する。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和3年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーション Web ページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 令和4年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーション Web ページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 令和5年3月に公開された新入生向け学生生活オリエンテーション Web ページ内において、各相談窓口の紹介ページを掲載した。 大学HP 更新に向けたコンテンツ構成の見直しに合わせ、相談窓口照会ページの見直しを図っている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和6年3月公開の大学HPにおいて、これまでよりも上位の階層で「学生支援」の名称を使用し、各相談窓口も含め支援内容へのアクセスの利便性向上を狙う更新を行った。			

<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<p>令和6年3月上旬に公開する新入生向け学生生活オリエンテーション Web ページに各相談窓口の紹介ページを掲載する。</p>
---	--

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	<p>（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）</p>			
確認年月	令和 2 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	学生委員協議会			
課題の内容	<p>課外活動施設の老朽化対策を含めた施設の利便性向上。 （現有の部室棟（鶴甲一、ブロック積み）は、昭和 36 年に建設され、耐震基準を満たしておらず、また、部室に天井はなく屋根まで吹き抜けであり、廊下側は 2m 程の壁で仕切られるのみとなっており、防犯面や室内環境は不適である。以前から改善を要しているものの、学内の他の修繕すべき施設との優先順位により改築の実施に至っていない。）</p>			
課題とした根拠資料等	<p>課外活動施設の設置年月並び改修状況 学生からの要望</p>			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	<p>2019 年 11 月に神戸大学基金創立 120 周年記念事業の一環として「クラブハウス新設」を立ち上げた。今後、学内外に向け広報等を積極的に行い、実現に向け募金額の増額を図るものとする。 キャンパス内に建物を新築・改築するにあたり、自治体に未届出の既存建築物が問題となることが判明したため、施設部とも調整の上、課外活動関係の該当施設を洗い出し、法令に適合しないものについては必要予算を確保の上、建替えや改修を実施することで、今後の施設新築・改築を円滑に進める。</p>			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。			
<p>令和 3 年 4 月 1 日に大学と一体となって課外活動を支える組織として、課外活動団体 O B O G 会連合会が設立されたことから、引き続き課外活動団体 O B O G 会連合会と協力し、募金活動を行っていく。令和 4 年 10 月から令和 5 年 2 月にかけて部室棟の内壁改修工事を実施し、従来のブロック塀をなくすことで、利用者の安全面の強化を図った。 未届出既存建築物の対応については、施設部からの照会に基づき令和 5 年度中に対象施設の洗い出し作業を行う。その後、建替え・改修要否の検討及び予算確保方策の検討を進める。</p>				
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	公認課外活動団体に部室の利用状況に関するアンケートを実施し、部室や倉庫等の現状把握を行った。			

<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<p>上記アンケート結果に基づき、令和6年2月中に公認課外活動団体の部室・倉庫のニーズを把握する。この内容を施設部と共有の上、今後の施設新築・改築について検討する。</p>
---	--

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	留学生委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	<p>（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）</p>			
確認年月	令和 2 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	グローバル教育センター（旧 国際教育総合センター）			
課題の内容	留学生への生活支援等の一層の充実及び災害時等の臨時支援体制の整備			
課題とした根拠資料等	奨学金支援実績 新型コロナウイルス禍の影響で困窮した留学生支援にかかる社会的な要請等			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	奨学金の拡充等の留学生への生活支援等の一層の充実及び災害時等の臨時支援を目的として、令和 2 年 10 月に「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」を新たに立ち上げた。今後は、国内外への広報等を積極的に行い、募金額の増額を図るとともに、定期的に支援内容の見直しを図り、さらなる充実を図る。今後も、委員会や同窓会等の様々な機会でも積極的に広報活動を行い、本募金の認知度を上げつつ、募金額の一層の増額を図っていく。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 3 年 1 月に神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」に関する情報を掲載するとともに、「神戸大学東日本留学生同窓会」、「神戸大学留学生西日本同窓会」において、同窓生に対して、募金の呼びかけ等を行うなど、国内外向けに広報を行い、引き続き募金受付を行った。 立ち上げ（令和 2 年 10 月）から令和 5 年 3 月までの募金実績は 27 名 860,000 円。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業募金」に関する情報を掲載するとともに、令和 5 年 7 月に開催した「神戸大学留学生西日本同窓会」、及び令和 6 年 2 月に開催した「神戸大学留学生東日本同窓会」において、同窓生に対して募金の呼びかけ等を行い、引き続き国内外向けに広報を実施した。			

<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<p>引き続き神戸大学基金HP及びグローバル教育センターHPにおいて、情報を掲載するとともに、「神戸大学留学生西日本同窓会」(令和6年7月開催予定)、「神戸大学留学生東日本同窓会」(令和7年2月開催予定)で募金の呼びかけ等を行うなど、国内外向けに広報を実施する。</p>
---	---

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	留学生委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	<p>（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）</p>			
確認年月	令和 3年 2月			
対応計画の実施主体	学務部国際交流課			
課題の内容	新型コロナウイルス禍での外国人留学生入国時の支援			
課題とした根拠資料等	令和2年途中から、順次、国費外国人留学生、私費外国人留学生の来日が認められることとなったが、日本政府の水際対策により、本邦に入国後、ホテル等での一時待機（一時待機場所までは、公共交通機関以外の手段で移動）及び一時待機期間中の健康状態の把握等が必須となったことに伴い、留学生来日時点の生活関連支援を行う必要があるため。			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	<p>本人と綿密に連絡を取りつつ、公共交通機関以外のハイヤー等の手配及びホテル等の一時待機期間中の宿泊施設の確保、一時待機中の体調の状況把握等、一時待機終了後の入寮手続き等まで、当該部局・委託業者等と連携し、一貫した支援体制を整備し、外国人留学生が入国後、不安なく滞在出来るよう支援する。</p> <p>令和4年3月からは、一時待機用宿泊施設として学生寮を提供。入国のための文科省の連絡等もふくめ留学生の所属部局と連携して上記支援を行う。</p>			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	<p>※上記の進捗状況について具体的に記載してください。</p> <p>受入大学として入国前の政府機関への連絡や、入国後の一時待機等について、留学生の所属部局とも連携し円滑な入国、及びその後の滞在について支援した。</p>			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況				
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43をご参照ください）			
確認年月	令和2年11月			
対応計画の実施主体	キャンパスライフ支援センター			
課題の内容	障害学生支援についての理解度向上及び学内協働支援体制の強化。 （授業担当教員へのアンケート結果等から、障害学生への修学支援について、年々理解が広まっているものの浸透していない点も見受けられる）			
課題とした根拠資料等	支援学生に関わる授業担当教員対象アンケート ダイバーシティ推進の社会的要請等			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	障害並びに法的義務への理解を深めるため、教職員に向けたFD・SDの機会を増やすこととするとともに、大学全体での協働支援体制の強化について、検討・対応することとした。 キャンパスライフ支援センター運営小委員会の組織について、大学全体での協働支援体制の強化に向け、各学術系列からの委員選出等構成に関する検討を令和3年度内に行う。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和3年度内に、センター会議でそれまでは専門性重視で一研究科の教員のみが委員となっていた小委員会組織を次年度から各学術系列から代表委員を選出する形式に変更することを諮り決定した。FD・SDを実施した。 令和4年度、各学術系列から選出された運営小委員会委員とともに合理的配慮について検討し、障害学生支援への理解と協働支援体制の強化に努めた。FD・SDを実施した。 令和5年度、学生とともにPBL型の演習参加を教職員に案内する等、障害への理解を深める機会の提供を行った。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和6年2月に音声情報の文字化を専門としている外部団体と連携し、主に聴覚障害についての講義と必要とされる具体的支援技術を学ぶ研修会を学生対象に実施した。			

<p>今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)</p>	<p>令和 6 年 4 月改正施行の障害者差別解消法に合わせ文部科学省が現在取りまとめている障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第三次まとめ）について、発表後に内容を案内する資料や理解を深めるための施策を令和 6 年度中に検討、実施する。</p>
---	---

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 2 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	学生委員協議会			
課題の内容	学生寮の老朽化対策を含めた施設の利便性向上。 （特に昭和 30 年代に建築されている白鷗寮は改修が行われているものの現在も 4 人がシャワーと台所を共同利用している状況であり、昨今の新型コロナウイルス感染症を鑑みると感染拡大のリスクが高い。）			
課題とした根拠資料等	学生寮の設置年月並びに改修状況 新型コロナウイルス感染拡大防止対応 学生からの要望等			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	シャワー付き個室へ改修することが望まれるが、この工事費や工事期間中の代替に必要な資金を経済的に困難な学生及び本学の積立金等から負担することは厳しいことから、今後施設整備事業として要求していくこととする。 概算要求を行っていくとともに、新たな学生寮の建設、維持管理、運営等を民間の資金を活用して整備することができないか検討する。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 5 年 3 月部局長会議において、白鷗寮の募集停止・廃寮の計画が含まれた学生宿舎の基本方針（案）が提示されたが、継続審議となっていることから現在予算要求は行っていない。 六甲台に民間会社が建設した学生寮（令和 6 年開寮予定）と提携することとなり、日本人学生に広く周知することとしている。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	引き続き、民間資金を活用して、学生寮を整備する事業の可能性について複数の業者から提案を受け付けている段階である。提携寮は予定どおり、令和 6 年 4 月開寮となる。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	令和 6 年 4 月以降、業者から提案された後、その提案を分析の上、寮建物の建て替え・大規模改修・寮の廃止・存続を含めた新基本方針（案）を作成し、各会議体において、審議していく予定としている。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 3 年 3 月			
対応計画の実施主体	保健管理センター			
課題の内容	新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生のメンタルヘルスへの考慮。			
課題とした根拠資料等	新型コロナウイルス感染拡大防止対応 大学ホームページによる告知			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うストレスを受ける学生の心身の健康維持のため電話や Web を活用した相談・カウンセリングを行う。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を <input checked="" type="checkbox"/> にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 コロナ禍の 3 年間で、対面による「こころの健康相談」以外にも、WEB による相談システムを着実に構築して相談業務は順調に継続できた（コロナ禍のピーク時は相談件数全体の約 70%が非対面であった）。その後、現在はコロナ禍も一段落して、対面相談の希望が増えている状況である。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 5 年 5 月に政府によって新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類に変更された。それに伴い本学の感染対応等も通常に戻ったため、こころの健康相談の大多数が対面に戻った（希望者のみ非対面で対応中）ことで解決した。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	学生委員協議会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	学生委員協議会			
課題の内容	学生生活に関する学生からの意見聴取について （これまで3年毎に「学生生活実態調査」の名称で実施していたアンケートについて、前回実施時（令和元年度）に設問の大幅な内容変更及び回答手法の変更を行ったものの1割に満たない回収率であったことから、有用な意見の収集方法を検討するとして令和4年度実施を見送っている。令和4年度の学生意見は利用制度毎のアンケート収集のみとなっており、今後の方策等の検討が課題となっている。）			
課題とした根拠資料等	学生支援に関する自己点検・評価の実施について			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	学生からの意見聴取の方策等について令和5年度中に確認し、遅くとも令和6年度中に実施する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和5年度中に意見聴取の方策等について確認する。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和6年2月9日からMicrosoftFormsを利用した学生生活アンケートを実施している。（令和6年3月21日迄）			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	令和6年度中に今回実施のアンケート結果発表及び次回令和7年度予定の学生アンケート実施体制を検討する。			

令和5年11月21日
施設部

施設及び設備に関する自己点検・評価の実施について

施設及び設備に係る内部質保証実施要項（令和2年2月20日施設マネジメント委員会承認）に基づき実施した。

1. 施設・設備の整備状況について

毎年、「国立大学法人等施設実態報告」にて敷地面積、建物の保有面積を把握しており、大学設置基準で規定されている面積に係る基準を満足していることを確認している。

2. 施設・設備の安全面等の配慮の状況について

(1) 耐震化について

神戸大学全建物の基本情報を整理している施設実態調査より耐震化率 100%であることを確認した。

(2) 老朽化の状況について

大学の施設について、安全で良好な状態を維持する必要があることから、施設の老朽化状況を把握した上で部位ごとに改修計画（神戸大学アクションプラン）を策定し、改善を行っている。

(3) バリアフリー化について

平成29年度にバリアフリー調査を行い、バリアフリーマップを作成してホームページ上で公開している。

(4) 外灯の設置について

外灯は配置図にて適切に配置されていることを確認しており、安全・防犯面の配慮がされていると考えている。

(5) 安全面等への配慮について

建築基準法12条第1項に基づき特殊建築物等定期報告を行い、施設の安全面を確認している。

3. 施設・設備の自己点検・評価に関する外部の視点について

(1) 外部の視点について

延床面積1000㎡以上の新営・改修事業において、完了してから1年後を目安に利用者を対象にアンケートを行い、利用者等の意見を確認した。（施設整備後の利用者アンケート）

また、施設整備等に関する意見交換（キャラバン）の実施や、施設相談窓口を設置し施設利用者から施設に関する相談を受けている。

基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること

分析項目 2-3-1 自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2-3-1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠				
令和3年 ～ 令和5年	経年劣化により雨漏りが発生しているため、改善する必要がある。	利用者の意見や要望	施設の老朽化状況を把握し改修計画を策定し、改善を行っており、屋上防水や外壁等について、改修計画に基づき更新していく。	施設部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	領域4 基準4-1
令和3年 ～ 令和5年	老朽化により空調設備が故障し、執務環境が悪化しているため、改善する必要がある。	利用者の意見や要望	施設の老朽化状況を把握し改修計画を策定し、改善を行っており、空調設備等について、改修計画に基づき更新していく。	施設部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	領域4 基準4-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠				
令和3年 ～ 令和4年	老朽化により衛生環境が悪化したトイレを改善する必要がある。	利用者の意見や要望	施設の老朽化状況を把握し改修計画を策定し、改善を行っており、老朽化により衛生環境が悪化したトイレについて、改善を行っていく。	施設部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	領域4 基準4-1

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載してください。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載してください。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意してください。

基準 4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

分析項目 4-1-3 施設・設備における安全性について、配慮していること

【分析の手順】

- ・施設・設備における耐震化については、評価実施年度の耐震化率を確認する。
- ・耐震基準を満たしていない場合は、その理由と改善のための計画について確認する。
- ・施設・設備の老朽化に対する対応の状況について確認する。
- ・外灯や防犯カメラの設置等、各大学固有の事情等に応じて安全・防犯面への配慮がなされていることを確認する。
- ・施設・設備のバリアフリー化について、障害のある学生等の利用者が円滑に利用できるよう配慮がなされていることを確認する。
- ・その他施設・設備に法令上の要件が課されている場合は、適切な管理運営の状況を確認する。

・施設・設備の耐震化、バリアフリー化等の整備状況（別紙様式 4-1-3）

事項	キャンパス	整備状況（※主要なキャンパスごとの耐震化率を記載）	備考(整備不十分の場合の対応状況等)
耐震化	全キャンパス	耐震化率 100%	
老朽化への対応	全キャンパス	インフラ長寿命化計画を策定し、計画的に保全を行っている。	建物及び部位について、改修計画を策定している。
バリアフリー化	六甲台キャンパス、楠・名谷・深江キャンパス	各棟のバリアフリー状況を把握し、バリアフリーマップをホームページで公開して周知している。	公開アドレス https://www.kobe-u.ac.jp/SCCL/map/index.html

・安全・防犯面への配慮の状況（別紙様式 4-1-3）

事項	キャンパス	配慮の状況
外灯の設置	六甲台キャンパス	構内に必要な外灯を設置している。
安全面等への配慮	全キャンパス	建物の安全性について、法令で定められた定期点検を実施している。

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

施設及び設備の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

					令和5年度	
					令和5年12月（教育研究評議会）	令和6年4月（教育研究評議会）
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況 ①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
1	施設マネジメント委員会	施設部	経年劣化により、雨漏りが発生している。 老朽化により空調設備が故障し、執務環境が悪化している。 老朽化によりトイレの衛生環境が悪化している。	令和5年10月	対応中 ①令和4年3月に施設の老朽化状況を把握し、効率的に執行できるように部位ごとに改修計画を策定し、改善を行っている。 ②令和4年3月：神戸大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）第4期中期計画目標期間アクションプランを策定 令和4年度以降：屋上防水・外壁を改修（老朽劣化対策経費等） 空調設備を改修（目的積立金等） トイレを改修（施設整備費補助金）	対応中 ②屋上防水・外壁：自然科学1号館・2号館等を改修 空調設備：GHPをEHPに更新するため、電気設備を改修し、来年度空調改修を行う。 ③インフラ長寿命化計画等に基づき、計画的に改修を行う。

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	施設マネジメント委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 1 0 月			
対応計画の実施主体	施設部			
課題の内容	経年劣化により、雨漏りが発生している。 老朽化により空調設備が故障し、執務環境が悪化している。 老朽化によりトイレの衛生環境が悪化している。			
課題とした根拠資料等	利用者の意見や要望			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	令和 4 年 3 月に施設の老朽化状況を把握し、効率的に実行できるように部位ごとに改修計画を策定し、改善を行っている。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 4 年 3 月：神戸大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）第 4 期中期計画 目標期間アクションプランを策定 令和 4 年度以降：屋上防水・外壁を改修（老朽劣化対策経費等） 空調設備を改修（目的積立金等） トイレを改修（施設整備費補助金）			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	屋上防水・外壁：自然科学 1 号館・2 号館等を改修 空調設備：GHP を EHP に更新するため、電気設備を改修し、来年度空調改修を行う。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	インフラ長寿命化計画等に基づき、計画的に改修を行う。			

I C T戦略に係る内部質保証における自己点検・評価について 分析結果報告

令和 5 年 11 月 29 日
情報委員会

「I C T戦略に係る内部質保証実施要項」（以下実施要項という。）に基づき、3年に一度実施する自己点検・評価の分析結果を報告する。

記

1. 実施要項第 6 条に規定する評価基準が満たされているか、次の方法で分析、評価を行い、有効に活用されていることを確認した。（詳細は、別添集計表のとおり）
 - ・ I C T設備を管理・運用している部局へ自己点検評価を依頼、結果の集計と分析
2. 実施要項第 5 条に定める学生の意見聴取については、学生生活実態調査が改善検討中のため、実施されなかった。このため、令和 5 年度以降、卒業・修了時アンケートの中で ICT 環境に関する学生の意見を聴取する予定である。これにより、学生の回答数の増加も見込まれる。また、学生生活実態調査の改善の状況を踏まえて、実施要項を修正する予定である。

なお、情報基盤センター・情報推進課の連絡窓口に学生からの意見が届くことがあり、これも学生の意見等を聴取する手段の一つとして位置づけている。

※以下意見等（抜粋）

- ・（廊下にある）全学用の無線 LAN の電波を各実験室へ中継して教員・学生が利用したい。
- ・研究室にある Wifi の接続方法をご教示いただきたいです。現在、●●●キャンパスの□□学舎の×××研究室を使用しております。同研究室において、「KUWiFi」の通信が途切れることが多い状況です。そこで、研究室内の Wifi（NEC のルーター）に接続することで解決しようとしたのですが、接続できませんでした。（中略）つきましては、研究室にある Wifi の接続方法をご教示ください。
- ・現在経営学部の 3 回生の●●と申します。WIFI についてお聞きしたいです。一度停電が発生してから、学内の WIFI に学籍番号、パスワードを入力しても、使用ができない、リジェクトされる状況になっています。停電以前は問題なく 2 年ほど使用できていました。原因を確認してもらうことは可能でしょうか？

【参考 実施要項】

（意見聴取）

第 5 条 学生生活実態調査の中で ICT 環境に関する意見を聴取し、その結果を、内部質保証の基盤となる自己点検・評価に活用する。

（評価基準）

第 6 条 ICT 戦略に係る内部質保証の基盤となる自己点検・評価に関する評価基準は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) ネットワーク接続環境の整備・利用が適切に行われていること
- (2) I C T環境の整備・利用（教室設備・オンラインシステム等）が適切に行われていること

令和3年度（実績）

（整備状況）

・人文学研究科	9台	(BYOD3期(8)、部局負担(1))
・人間発達環境学研究科	13台	(BYOD3期(12)、部局負担(1))
・六甲台本館	16台	(BYOD3期(16)) ※要望：経済(12)、経営(4)
・六甲台第三学舎	1台	(BYOD3期(1)) ※要望：経済(1)
・社会科学系アカデミア館	7台	(BYOD3期(7)) ※要望：経済(7)
・社会科学系フロンティア館	2台	(BYOD3期(2)) ※要望：法学(2)
・理学研究科	3台	(BYOD3期(3))
・医学研究科/附属病院	5台	(BYOD3期(5))
・保健学研究科	11台	(BYOD3期(11))
・工学研究科	24台	(BYOD3期(24))
・農学研究科	8台	(BYOD3期(8))
・海事科学研究科	8台	(BYOD3期(8))
・国際コミュニケーションセンター	9台	(BYOD3期(9))
・グローバル教育センター	2台	(BYOD3期(2))
・附属図書館（総合・国際文化学）	2台	(BYOD3期(2))
・附属図書館（社会科学系）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（自然科学系）	3台	(BYOD3期(3))
・附属図書館（人文科学）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（医学分館）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（保健科学）	3台	(BYOD3期(3))
・附属図書館（海事科学分館）	1台	(BYOD3期(1))
合計	130台	(整備済み) (BYOD3期(128)、部局負担(2))

令和4年度（実績）

（整備状況）

・六甲台第三学舎	5台	(教育用端末廃止(5))
・六甲台第五学舎	8台	(教育用端末廃止(1)、部局負担(7)) ※負担：国協(7)
・工学研究科	1台	(部局負担(1))
・保健学研究科	1台	(教育用端末廃止(1))
・海事科学研究科	4台	(部局負担(4))
・グローバル教育センター	1台	(教育用端末廃止(1))
・マリンサイト	1台	(部局負担(1))
・附属図書館（自然科学系）	5台	(部局負担(5))
・事務局	1台	(部局負担(1))
合計	27台	(整備済み) (教育用端末廃止(8)、部局負担(19))

令和5年度（実績：令和5年10月31日現在）
（整備状況）

・保健学研究科	1台	（整備済み）
・医学研究科/附属病院	13台	（整備済み）
・経済経営研究所	2台	（整備済み）
・海事科学研究科（5号館改修）	5台	（整備計画中／年度内に設置予定）
・産官学連携本部（増築棟）	9台	（整備計画中／年度内に設置予定）
・研究基盤センター機器分析部門	1台	（整備計画中／年度内に設置予定）
・バイオものづくり共創拠点	8台	（整備計画中／設置は次年度以降の予定）
・大学教育推進機構（鶴甲1団地C棟）	1台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・六甲台第三学舎（経済）	2台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・六甲台第五学舎（法学(1), 国協(3)）	4台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・理学研究科	1台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・医学研究科/附属病院（研究棟E(仮称)）	5台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・海事科学研究科	1台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・科学技術イノベーション研究科	1台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・附属地域医療活性化センター	3台	（整備要望あり）（見積書提出済み）
・学生会館	9台	（整備要望あり）（見積書提出済み）

合計 66台（整備済み16台，予定50台）

・国際がん・医療研究センター（増築棟） 未定（整備要望あり，調査中）

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

ICT戦略の自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

					令和5年度	
					令和5年12月（教育研究評議会）	令和6年4月（教育研究評議会）
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況	進捗状況
					①対応計画（改善方策） ②進捗状況 ③今後の予定	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
1	情報委員会	情報委員会	学内LAN（無線LAN）の整備状況	令和2年11月	対応中 ①PC必修化の実施に伴う整備のほか各部局からの設置要望を受け、無線アクセスポイントの増設を計画的に行っている。 ②本件整備は、当初学生生活実態調査での要望に基づくものが主であったが、近年は情報基盤センター・情報推進課の連絡窓口への問い合わせ（メール含む）などにおいても無線LAN（無線アクセスポイント）の整備に関する要望が寄せられている。 このことを踏まえ令和3年度以降は、要望のあった部局と連携し順次無線アクセスポイントを増設し整備すると共に設置した機器の保守を担っている。 （別紙「無線アクセスポイント整備状況」参照） また、令和5年度以降、卒業・修了時アンケートの中でICT環境に関する学生の意見を聴取することとした。 ③連絡窓口への問い合わせ等に加えて、令和5年度以降は卒業・修了時アンケートにおける意見も踏まえ、順次無線アクセスポイントを増設し整備すると共に設置した機器の保守を担う予定である。	対応中 ②令和5年10月31日現在の令和5年度以降の整備状況（計画中、整備済、整備要望ありを含む）は、令和6年1月26日現在のそれと比較して、66台から101台に増加した。 （別紙「無線アクセスポイント整備状況」参照） ③連絡窓口や直接部局から頂くメールの他にも、卒業・修了時アンケートの意見を基にして、今後も引き続き要望部局と連携し順次無線アクセスポイントを増設し整備すると共に設置した機器の保守を担う予定である。

ICT戦略

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	情報委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）				
確認年月	令和 2 年 1 1 月			
対応計画の実施主体	情報委員会			
課題の内容	学内 LAN（無線 LAN）の整備状況			
課題とした 根拠資料等	学生の意見及び各部局からの要望			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	PC 必携化の実施に伴う整備のほか各部局からの設置要望を受け、無線アクセスポイントの増設を計画的に行っている。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 5 年 1 0 月 3 1 日現在の令和 5 年度以降の整備状況（計画中、整備済、整備要望ありを含む）は、令和 6 年 1 月 2 6 日現在のそれと比較して、6 6 台から 1 0 1 台に増加した。 （別紙「無線アクセスポイント整備状況」参照）			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください）	連絡窓口や直接部局から頂くメールの他にも、卒業・修了時アンケートの意見を基にして、今後も引き続き要望部局と連携し順次無線アクセスポイントを増設し整備すると共に設置した機器の保守を担う予定である。			

無線アクセスポイント整備状況

令和3年度（実績）

（整備状況）

・人文学研究科	9台	(BYOD3期(8)、部局負担(1))
・人間発達環境学研究科	13台	(BYOD3期(12)、部局負担(1))
・六甲台本館	16台	(BYOD3期(16)) ※要望：経済(12)、経営(4)
・六甲台第三学舎	1台	(BYOD3期(1)) ※要望：経済(1)
・社会科学系アカデミア館	7台	(BYOD3期(7)) ※要望：経済(7)
・社会科学系フロンティア館	2台	(BYOD3期(2)) ※要望：法学(2)
・理学研究科	3台	(BYOD3期(3))
・医学研究科/附属病院	5台	(BYOD3期(5))
・保健学研究科	11台	(BYOD3期(11))
・工学研究科	24台	(BYOD3期(24))
・農学研究科	8台	(BYOD3期(8))
・海事科学研究科	8台	(BYOD3期(8))
・国際コミュニケーションセンター	9台	(BYOD3期(9))
・グローバル教育センター	2台	(BYOD3期(2))
・附属図書館（総合・国際文化学）	2台	(BYOD3期(2))
・附属図書館（社会科学系）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（自然科学系）	3台	(BYOD3期(3))
・附属図書館（人文科学）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（医学分館）	1台	(BYOD3期(1))
・附属図書館（保健科学）	3台	(BYOD3期(3))
・附属図書館（海事科学分館）	1台	(BYOD3期(1))
合計	130台	(整備済み) (BYOD3期(128)、部局負担(2))

令和4年度（実績）

（整備状況）

・六甲台第三学舎	5台	(教育用端末廃止(5))
・六甲台第五学舎	8台	(教育用端末廃止(1)、部局負担(7)) ※負担：国協(7)
・工学研究科	1台	(部局負担(1))
・保健学研究科	1台	(教育用端末廃止(1))
・海事科学研究科	4台	(部局負担(4))
・グローバル教育センター	1台	(教育用端末廃止(1))
・マリ公式サイト	1台	(部局負担(1))
・附属図書館（自然科学系）	5台	(部局負担(5))
・事務局	1台	(部局負担(1))

無線アクセスポイント整備状況

合計 27台 (整備済み)(教育用端末廃止(8)、部局負担(19))

令和5年度(実績:令和6年1月26日現在)

(整備状況)

・保健学研究科	1台	(整備済み)
・医学研究科/附属病院	13台	(整備済み)
・経済経営研究所	2台	(整備済み)
・海事科学研究科 (5号館改修)	5台	(整備計画中/年度内に設置予定)
・研究基盤センター (機器分析部門)	1台	(整備計画中/年度内に設置予定)
・大学教育推進機構 (鶴甲1団地 C棟)	1台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・六甲台第三学舎 (経済)	2台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・六甲台第五学舎 (法学)	1台	(整備計画中/年度内に設置予定)
・六甲台第五学舎 (国協)	6台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・理学研究科 (B棟)	1台	(整備済み)
・理学研究科 (C棟)	1台	(整備計画中/年度内に設置予定)
・医学研究科/附属病院 (研究棟 E(旧福利課外施設)改修)	5台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・海事科学研究科	1台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・科学技術イノベーション研究科	1台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・附属地域医療活性化センター	3台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・学生会館	9台	(整備要望あり)(見積書提出済み)

合計 54台 (整備済み17台, 予定37台)

令和6年度(実績:令和6年1月26日現在)

(整備状況)

・人間発達環境学研究科 (発達科学部食堂改修)	1台	(整備計画中/R6年度内に設置予定)
・研究基盤センター (機器分析部門)	3台	(整備計画中/R6年度内に設置予定)
・国際がん・医療研究センター (増築棟新営)	12台	(整備計画中/R6年度内に設置予定)
・産官学連携本部 (増築棟新営)	9台	(整備要望あり)(見積書提出済み)
・バイオものづくり共創拠点	8台	(整備計画中/R6年度末に設置予定)

合計 33台

令和7年度(実績:令和6年1月26日現在)

(整備状況)

・システム情報学研究科 (情報価値創造教育棟新営)	14台	(整備計画中/R7年度内に設置予定)
---------------------------	-----	--------------------

合計 14台

附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

「神戸大学における内部質保証の基本的な考え方」及び「神戸大学内部質保証指針」に基づき、附属図書館の施設・設備については毎年自己点検・評価を実施する。附属図書館においては、附属図書館における内部質保証実施要項（以下、実施要項）及び神戸大学附属図書館評価委員会設置要項に基づき、附属図書館評価委員会が行い、「令和4年度神戸大学附属図書館年次報告」を作成、それをもって自己点検・評価を実施し、その結果を「令和4年度神戸大学附属図書館年次報告」の概要とした。

実施方法

- ・令和5年度第1回附属図書館評価委員会（令和5年8月21日～9月8日 メール審議開催）にて「令和4年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」により自己点検・評価を実施
- ・令和5年度第2回附属図書館運営委員会（令和5年9月19日～10月2日 メール審議開催）にて「令和4年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」において自己点検・評価結果を承認（実施要項第4条第1項）。
- ・第3回附属図書館運営委員会（令和5年11月7日）にて改善事項の審議を実施（実施要項第4条第2項）。

附属図書館に関する自己点検・評価結果は、以下のとおりである。

【評価事項①】

- ・附属図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備され、有効に活用されていること。

【評価結果①】

- ・学生用資料整備：

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。令和4年度の図書館予算は、前年度と同額の4千万円とし各館室へ配分したものの、光熱費等の高騰の影響を受け予算額通りの執行は行われず各館室の予算執行率は中央値で90%台前半にとどまった。前年度に整備した学生用図書を選定評価を従来通り実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことを確認した。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため限られた予算の中で適切な資料選定を行うと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

- ・研究用資料の整備：

第4期中期計画期間前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費について、令和2年10月8日の部局長会議での承認に基づき、令和4年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.74億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは前年度の契約タイトルを維持することができたが、今後、価格の高騰や為替の影響により第4期中期計画期間後半（令和7～9年度）の整備方針を検討する必要がある。

附属図書館運営経費は、令和4年度当初予算は約2.55億円で前年度から約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費（学生用資料費・e-study資料費・震災文庫資料費・

外国雑誌センター館経費)の確保が困難となっているが、令和4年度は前年度から約2%減の約0.71億円の予算を確保した。しかし、資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、前年度と同額の0.26億円を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、電子ジャーナル利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

今後、光熱水料の高騰や雇用単価の値上げ等により経費負担が増える見込みのため、学生用資料費や外国雑誌センター予算を見直し、検討をおこなう必要がある。

・ 電子的情報基盤の整備 :

令和4年度末における電子ジャーナル購読数は37,668タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約140万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は前年度の規模を維持している。

円安の進行によって令和5年度の所要見込が大幅に増加しており、今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から「転換契約」という新しい契約形態が提案され、本学は、国内10大学によるパイロットプロジェクトに参加し、令和5年1月からSpringer Nature社との転換契約を開始した。

・ 開館サービス :

令和4年度は時間外開館を従来の実施館の全館で再開したこともあり、年間総入館者数は370,273人で前年度の1.9倍、また1日あたり入館者数は1.8倍となった。コロナ前の令和元年度と比較すると、年間総入館者数では46%、1日あたり入館者数は52%の回復にとどまっているが、密を避けるために閲覧席を間引いて供用したことや改修に伴う自然科学系図書館の休館も影響していると考えられる。

・ 資料提供サービスと利用促進 :

学生への年間貸出総冊数は217,652冊で、前年度比約1.14倍となった。1日あたり入館者数(同約1.8倍)と比べれば緩やかな増加だが、コロナ禍前の令和元年度の209,180冊を超えており、平成30年度の208,442冊を底に回復傾向が見て取れる。利用促進においては、前年度に実施した「オンライン読書室」や電子ブックを利用した「仮想展示」といった非来館型の取り組みに代えて、本を借りて読むことを促進する来館型のイベント「読書マラソン」を、ネットワーク上のツールを利用することで非来館型のノウハウも活用しつつ実施し、アンケートでも好評価を得た。

・ 資料の保存 :

整理作業促進のため「資料収容力確保策に関する実務指針」の改訂を行い、資料の除籍を実施し書庫狭小化の課題解決に取り組んだ。令和4年度竣工の自然科学系図書館増築部分の共同利用書庫について、海事科学分館改修時への備えも含めて今後の方針を策定し、附属図書館全体における体系的な資料整備を進めている。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備におも一層努めていく必要がある。

【評価事項②】

- ・ 附属図書館の施設・設備の整備が適切に行われていること。

【評価結果②】

- ・ 学修支援機能の強化を目的としたラーニングコモンズ（LC）設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を、前年度と本年度の2年間で実施し、令和5年3月に竣工した。共創スペースとしてのLCに相応しい什器と設備が充実した。令和3年度から建物老朽化対策経費等により改修工事を実施していた社会科学系図書館管理棟の外壁について、令和4年度に完成した。

図書館システムについては、令和4年9月のリプレースを大きなトラブルもなく予定通り完了させることができた。サーバのクラウド化（情報基盤センターのサービスを利用）、デジタルアーカイブシステムの図書館システムとの統合、施設予約等の新機能の追加が主な変更点である。また、システム更新に合わせてネットワークの構成についても見直しを行った。具体的には、事務系機器は事務系ネットワークに移行するとともに、自動貸出機及び利用者用の端末等については、それぞれのプライベートネットワークに移行した。今後はシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。

- ・ 令和4年度、外部資金等による収入として、新聞記事文庫デジタル化のための科研費を獲得することができた。また、附属図書館として初めて1社とネーミングライツ・パートナー協定を結び、1年6ヶ月の期間ネーミングライツ料の収入を得られることとなった。その他、1社より自然科学系図書館のリニューアル・オープンを機に、テーブル・椅子の寄付を受けた。今後も外部資金等の獲得に努めたい。

【評価事項③】

- ・ 附属図書館の活動を展開するために必要な職員が配置され、適切に活用されていること。

【評価結果③】

- ・ 令和5年3月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員44名、非常勤職員35名、計79名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員3名、非常勤職員2名を配置している。10月から課長補佐の体制を、情報管理課1名・情報サービス課3名から、情報管理課2名・情報サービス課2名に変更し、情報管理課課長補佐1名を電子情報担当とした。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの研修が対面からWebに変更となるなか、学外のWeb研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。時間外開館及び土・日開館業務の体制については、予算の縮減と委託経費の上昇により外部委託は維持困難と判断し、学生アルバイトと非常勤職員（パート）により実施した。業務改善は、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

教育課程、学生受入、学生支援、施設・設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について

附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応実施計画及び進捗状況一覧

						令和5年度			
						令和5年12月（教育研究評議会）		令和6年4月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	進捗状況	①対応計画（改善方針） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定	
1	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。（電子的情報基盤の整備に関する事項）	令和4年11月	対応中	①令和6（2024）年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第4期中期計画後半（2025-2027）における教育研究基盤資料の整備について検討し、附属図書館運営委員会にて協議を行う。 ②令和6（2024）年の教育研究基盤資料の見直し及び第4期中期計画後半（2025-2027）における教育研究基盤資料の整備について、令和5年度第1回附属図書館運営委員会にて承認を得て、担当理事とも協議を行った。令和5年には、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約（転換契約）を大手1社と締結し、他1社についても検討中である。	対応中	②令和6（2024）年の教育研究基盤資料については、第4期前半の教育研究基盤資料整備費の上限（令和2年10月部局長会議承認）を上回る金額となってしまうが、円安の影響によるものであるため、大学執行部の了承を得て令和6年度事業経費として要求中。第4期中期計画後半（2025-2027）の教育研究基盤資料の整備については、為替の状況を踏まえて令和5年度第4回附属図書館運営委員会にて協議を行う。令和6年4月から電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約（転換契約）を新たに1社と締結することで、12月の部局長会議にて承認を得た。 ③第4期中期計画後半（2025-2027）の教育研究基盤資料の整備については、令和7（2025）年の教育研究基盤資料の契約に間に合うよう、図書館運営委員会での承認を得たうえで、大学執行部と協議を行う。	
2	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	①非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。（開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項）	令和4年11月	対応済	①従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第4期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。 ②令和4年度中に非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。令和5年度には、第4期中期計画期間における令和4年度の実績評価を実施し、令和4年度附属図書館年次報告にて、新たな評価指標に基づき報告を行った。			
3	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。（資料の保存に関する事項）	令和4年11月	対応中	①令和5年3月竣工の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に則して附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。 ②令和4年度に自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。自然科学系図書館は令和5年3月末に竣工し、改修工事に関わる資料等の引越し作業が終了した。図書館内資料の配架場所が確定したことにより、共同利用書庫として使用するスペースと収容冊数が確定した。	対応中	②共同利用書庫の対象とする資料の基準に則り、候補リストを作成中。 ③引き続き各館室ごとの候補リストおよび資料移動計画を作成し、用意が整い次第移動作業を開始する予定。共同利用書庫にて保存する製本雑誌については、各館室重複分の廃棄を進める。	
4	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	附属図書館の経常運営費が削減するなか、大学や社会、利用者の要望に十分応えうる図書館サービスに必要な施設・設備の充実や人材確保を図るため、外部資金等の獲得も見据えた財源の確保を目指す。（施設整備に関わる事項）	令和5年11月	対応中	①科研費などの外部資金の獲得やネーミングライツ、その他の方策を検討し、収入の確保を目指す。 ②・令和5年1月より海事科学分館で、7月より社会科学系図書館でネーミングライツをそれぞれ1件ずつ締結した。 ・令和5年度からの学術情報流通活性化経費を獲得した。 ・令和5年10月、人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務に採択された（令和9年度まで）。	対応中	②令和6年6月終了の海事科学分館ネーミングライツについて、ネーミングライツパートナーからの了承を得られ、令和6年7月から1年間継続の予定。 ③引き続き、外部資金等獲得に向けて情報収集を行う。	

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	(記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください)			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。(電子的情報基盤の整備に関する事項)			
課題とした根拠資料等	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画 (改善方策) (時期も記載してください)	令和 6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第 4 期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備について検討し、附属図書館運営委員会にて協議を行う。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 (自己点検・評価時)	令和 5 年度 (進捗状況確認時)
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を <input checked="" type="checkbox"/> にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 6(2024)年の教育研究基盤資料の見直し及び第 4 期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備について、令和 5 年度第 1 回附属図書館運営委員会にて承認を得て、担当理事とも協議を行った。令和 5 年には、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約(転換契約)を大手 1 社と締結し、他 1 社についても検討中である。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 6(2024)年の教育研究基盤資料については、第 4 期前半の教育研究基盤資料整備費の上限(令和 2 年 10 月部局長会議承認)を上回る金額となってしまったが、円安の影響によるものであるため、大学執行部の了承を得て令和 6 年度事業経費として要求中。第 4 期中期計画後半(2025-2027)の教育研究基盤資料の整備については、為替の状況を踏まえて令和 5 年度第 4 回附属図書館運営委員会にて協議を行う。令和 6 年 4 月から電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約(転換契約)を新たに 1 社と締結することで、12 月の部局長会議にて承認を得た。			
今後の予定 (改善方策) (時期も記載してください)	第 4 期中期計画後半(2025-2027)の教育研究基盤資料の整備については、令和 7(2025)年の教育研究基盤資料の契約に間に合うよう、図書館運営委員会での承認を得たうえで、大学執行部と協議を行う。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。（開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項）			
課題とした根拠資料等	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第 4 期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input checked="" type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 4 年度中に非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。令和 5 年度には、第 4 期中期計画期間における令和 4 年度の実績評価を実施し、令和 4 年度附属図書館年次報告にて、新たな評価指標に基づき報告を行った。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況				
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）				

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43をご参照ください）			
確認年月	令和5年11月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。（資料の保存に関する事項）			
課題とした根拠資料等	令和3年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	令和5年3月竣工の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に則して附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。			
進捗状況	令和3年度以前	令和4年度	令和5年度 （自己点検・評価時）	令和5年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和4年度に自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。自然科学系図書館は令和5年3月末に竣工し、改修工事に関わる資料等の引越し作業が終了した。図書館内資料の配架場所が確定したことにより、共同利用書庫として使用するスペースと収容冊数が確定した。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	共同利用書庫の対象とする資料の基準に則り、候補リストを作成中。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	引き続き各館室ごとの候補リストおよび資料移動計画を作成し、用意が整い次第移動作業を開始する予定。共同利用書庫にて保存する製本雑誌については、各館室重複分の廃棄を進める。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 5 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	附属図書館の経常運営費が削減するなか、大学や社会、利用者の要望に十分応えうる図書館サービスに必要な施設・設備の充実や人材確保を図るため、外部資金等の獲得も見据えた財源の確保を目指す。（施設整備に関わる事項）			
課題とした根拠資料等	令和 4 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画（改善方策） （時期も記載してください）	・ 科研費などの外部資金の獲得やネーミングライツ、その他の方策を検討し、収入の確保を目指す。			
進捗状況	令和 3 年度以前	令和 4 年度	令和 5 年度 （自己点検・評価時）	令和 5 年度 （進捗状況確認時）
	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 検討中
	<input type="checkbox"/> 対応中	<input type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中	<input checked="" type="checkbox"/> 対応中
	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済	<input type="checkbox"/> 対応済
※該当する項目を☑にしてください。	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 ・ 令和 5 年 1 月より海事科学分館で、7 月より社会科学系図書館でネーミングライツをそれぞれ 1 件ずつ締結した。 ・ 令和 5 年度からの学術情報流通活性化経費を獲得した。 ・ 令和 5 年 10 月、人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務に採択された（令和 9 年度まで）。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	・ 令和 6 年 6 月終了の海事科学分館ネーミングライツについて、ネーミングライツパートナーからの了承を得られ、令和 6 年 7 月から 1 年間継続の予定。			
今後の予定（改善方策） （時期も記載してください）	・ 引き続き、外部資金等獲得に向けて情報収集等を行う。			